CONTAX

取扱説明書

Aria

この取扱説明書は、Recycle Paperを使用しています。

このたびは、コンタックスAriaをお買い上げいただきありがとうございます。このカメラは『作品をつくるカメラ』というCONTAXの基本思想を継承しながら、小型・軽量、しかも逆光などの撮影でも自動的に露出補正される評価測光を新たに搭載したマルチモード対応のAE一眼レフカメラです。ご使用になる前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しい取り扱いで末永くご愛用ください。

この取扱説明書の説明内容は、マルチモード対応のプラナーT＊50mmF1.4（MM）付きで行っていますが、他のCONTAX35mm一眼レフ対応カールツアイス交換レンズを装着した場合も特に記載がない限り使用方法は同じです。

この取扱説明書は、図のようにして各部の名称と照らし合わせて読むことができます。

〈本製品の同梱物〉

本製品には次のものが同梱されていますので、お確かめください。

1. カメラ本体（ボディキャップ付）……1
2. アイカップF−3……1
3. リチウム電池（CR2）……2
4. ストラップセット……1
5. 取扱説明書（本書）……1
6. CONTAXご販売カード（愛用者登録カード）……1
7. カスタム機能早見表……1
8. コンタックスクラブのご案内……1

＊データバック付タイプにはさらに次のものが同梱されています。

10. データバックD−9取扱説明書……1
11. データバック用リチウム電池（CR2025）……2
12. ドライバー……1

各部の名称

露出補正ダイヤル（P47）
A・B・Cレバー（P51）
表示パネル（P18）
ISOボタン／
アップボタン（P23）
ドライブモードボタン／
ダウンボタン（P26）
メインスイッチ（P15）
シャッターボタン
レンズ取りはずし
ボタン（P14）
ケーブルスイッチ
ソケット（P68）
セルフタイマーLED（P62）
絞り込みボタン（P69）
アクセサリーシュー（P54）
専用ストロボ接点
ダイレクトX接点
シャッターダイヤル（P28）
露出モードレバー（P25）
吊り環（ストラップ
の取り付けP93）
CONTAX
レンズ指標（P14）
スクリーン交換つめ（P82）
マウント

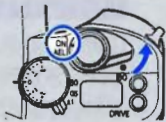
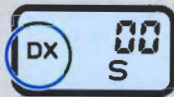
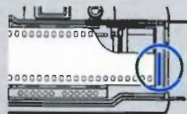
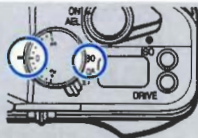
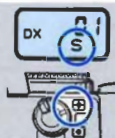
目次

その他

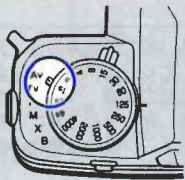
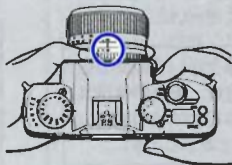
別売りアクセサリー

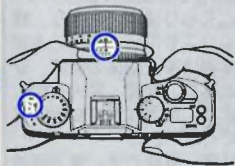
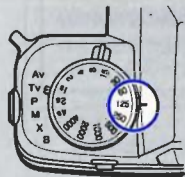
撮影の早わかり（オート露出撮影）

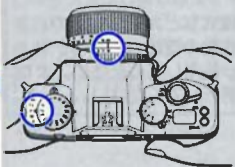
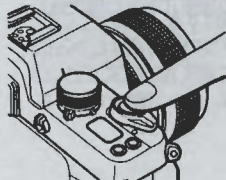
1 電池を入れます。
(P12)

2 レンズを取り付けます。
(P14)

3 メインスイッチを"ON"にします。(P15)

4 フィルム感度を"DX"にセットします。
(P22)

5 DXマークのついたフィルムを入れます。
フィルム先端をオレンジ色の"Ɪ"マークまで引き出し、そのままスプールの上にのせ裏ぶたを閉めます。(P20)

6 各モードを図のようにセットします。
露出補正ダイヤルを"0"にします。(P47)
A·B·Cレバーを"0"にします。(P51)
ドライブモードを"S"にします。(P26)
測光レバーを"⊞"にします(P28)

絞り優先オート(P35)

シャッター優先オート(P36)
(MMレンズ使用時のみ)

プログラムオート(P38)
(MMレンズ使用時のみ)

7 露出モードレバーを"Av"にセットします。(P35)

8 絞りをセットします。(P35)

9 ピントを合わせ構図を決めて撮影します。

7 露出モードレバーを"Tv"にし、レンズの絞りを最小絞り(緑色)にセットします。(P36)

8 シャッタースピードをセットします。(P36)

9 ピントを合わせ構図を決めて撮影します。

7 露出モードレバーを"P"にし、レンズの絞りを最小絞り(緑色)にセットします。(P38)

8 ピントを合わせ構図を決めて撮影します。

安全に関する表示について

この取扱説明書では、このカメラを安全に使用していただくために、次のような表示をしています。内容をよくお読みいただき、正しく使用してください。

⚠注意	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が傷害を負う危険および物的損害の発生が想定されることを示します。

⚠警告	このマークは、製品を正しくお使いいただけなかった場合に、製品の使用者等が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。

取り扱い上のご注意

〈カメラ使用上の注意〉

- レンズやファインダー接眼部などにゴミ・ホコリがある場合は、ブロワーで吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払い、指紋などがついた場合はむやみに拭かず、市販のレンズ紙などで軽く拭いてください。またミラー面のゴミやホコリは、レンズ刷毛で軽く払う程度にしてください。
- 本体の汚れを落とすときは、柔らかな布などで拭いてください。ベンジンやシンナーなどの有機溶剤は本体破損の原因になりますので、絶対に使用しないでください。

⚠注意	● 海岸やほこりの多い所での撮影後は、カメラをよく清掃してください。潮風は金属を腐食し電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙、発火を起こすこともあります。また砂ぼこりは内部機構の作動不良を起こします。 ● 寒いところから急に暖かい室内に持ち込むと、レンズがくもることがあります。しばらくするとくもりは消えますが、繰り返し行うとレンズやボディ内部に水滴が生じます。水滴は電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。急激な温度変化はできるだけ避けてください。 ● カメラは精密な電子機器です。電子回路の断線による発煙・発火や機構の破損の原因となる落下や衝撃は避けてください。 ● **海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは、前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてから使用してください。また、予備の電池を携行してください。**

⚠ 警告

- カメラや電池が熱くなる、煙が出る、焦げ臭いなどの異常を感じたときは、速やかに電池を取り出してください。火災や火傷の原因となります。（電池を取り出す際、火傷には十分ご注意ください。）
- カメラを分解、改造しないでください。高電圧がかかり感電する恐れがあります。
- ストロボ撮影時、ストロボを人の（とくに乳幼児）目に近づけて撮影しないでください。目の近くでストロボを発光すると視力障害を起こす危険性があります。
- カメラで、太陽や強い光源を直接見ないでください。視力障害を起こす危険性があります。
- 移動しながらの撮影はおやめください。特にファインダーを覗きながら移動すると事故の原因になります。
- 撮影時は被写体に気をとられすぎずに、周囲の状況にも十分注意をはらってください。

〈三脚使用上の注意〉

このカメラはコンパクトに作られているために、プラナーT*85mmF1.4、マクロプラナーT*60mmF2.8などの径が大きいレンズを装着して大型三脚に取付けた場合、雲台の台座がレンズにあたり、作動不良や故障の原因になることがあります。このような場合は、市販のクイックシューアダプターなどをカメラと三脚の間に取付けて、レンズがあたらないようにしてください。

〈シャッター幕について〉

シャッター幕は非常に薄い材質でできています。絶対に指で突いたり触れたり拭いたりしないでください。フィルム交換の際はフィルム先端がシャッター幕に触れないようご注意ください。また、ブロワーで吹く際は強く吹かないでください。強く吹くと変形や破損の恐れがあります。ボンベタイプのブロワーは絶対に使わないでください。

〈マイクロコンピューターの保護回路について〉

このカメラは外部の強力な静電気に対して、内部のマイクロコンピューターを保護するための安全回路を内蔵しています。この安全回路の働きにより、極めてまれにカメラが作動しなくなることがあります。このような場合は、メインスイッチをOFFにし、一旦電池を取り出して、もう一度入れ直してからご使用ください。

〈赤外線フィルム撮影について〉

このカメラの特性上、赤外線フィルムは使用できませんのでご注意ください。

〈カメラの保管について〉

● 暑い場所（夏の海辺、直射日光下の車内など）に長時間おいておくと、フィルムや電池の性能を低下させ、カメラにも悪影響を及ぼしますので放置しないでください。

● カメラを長期間使わないときは電池を取り出しておいてください。電池の液漏れなどによる事故を防ぎます。

⚠注意	● カメラは湿気やほこりのある場所や防虫剤のあるタンス、実験室のように薬品を扱うところを避け、風通しのよいところに保管してください。電子回路の断線、ショートの原因となり、発煙・発火を起こすこともあります。

〈電池取り扱い上の注意〉

● 電池は一般に、低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地での使用の前後はカメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温してください。なお低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。

● 電池の＋－極が汗や油などで汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾布でよく拭いてから使用してください。

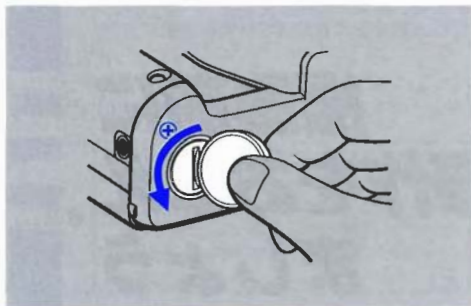
● 長期の旅行などには、予備の新しい電池を用意してください。

● 電池の＋－を間違えて入れるとカメラは作動しません。

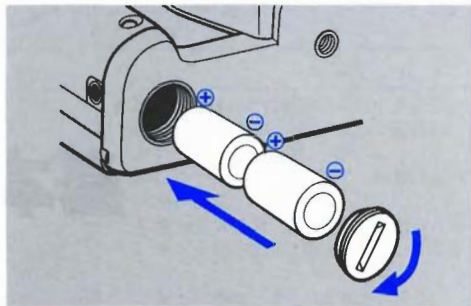
⚠注意	● 金属製のピンセットのような導電性のあるもので電極に触れないでください。電池の消耗を早めるだけでなく、ショートして危険です。

⚠警告	● 次のようなことは絶対にしないでください。電池が破裂し火災、けがや周囲を汚損する原因となります。 ① このカメラで指定されている電池以外は、使用しないでください。 ② 電池を火の中に入れたり、充電ショート、分解、加熱は絶対にしないでください。 ③ 新しい電池と使用した電池、違うメーカーや他の種類の電池を混ぜてつかわないでください。 ④ CR2（3Vリチウム電池）は充電禁止です。絶対に充電しないでください。 ● 電池を廃棄する場合は、接点にテープを貼るなど絶縁してください。廃棄後他の金属と接触すると、破裂、発火の原因となります。 ● 電池は幼児の手の届かないところに置いてください。万一電池を飲み込んだ場合、電池が壊れて電池の液で胃、腸などが損傷する恐れがありますので、直ちに医師と相談してください。

撮影前に
基本操作をおぼえ
ましょう

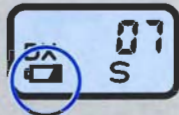
電池の入れかた

メインスイッチを“OFF”にしてから行ってください。

1 **バッテリー室カバーを開けます。**

硬貨などを利用し、矢印方向に回して開けてください。

2 **3Vリチウム電池（CR2）2本をバッテリー室内の表示に従って正しい向きで入れます。**

- 電池の向きを間違えると、カメラが作動しないばかりでなく、故障の原因となります。

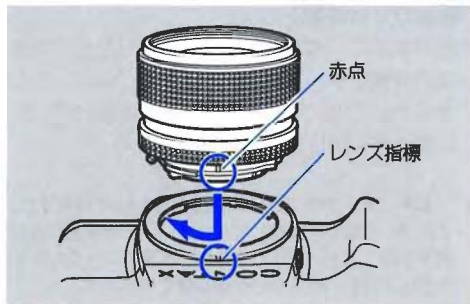
3 **カバーを元通りに閉めます。**

〈バッテリーチェック〉

電池を入れた後、カメラを一度作動させてください。表示パネルに"▭"（バッテリー警告マーク）が表示されなければ、電池の電圧は正常です。

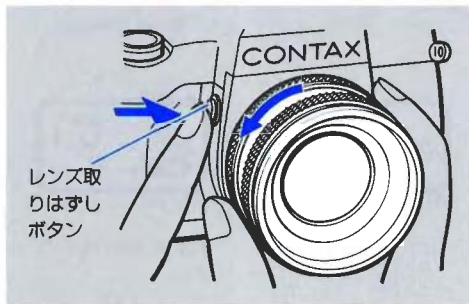
〈電池の交換時期〉

表示パネルに"▭"マークが点灯したら、電池交換の時期です。メインスイッチを"OFF"にしてからカメラのバッテリー室カバーを開けて、新しい電池と交換してください。

- "▭"マークが点灯してからも撮影はできますが、すみやかに電池を交換してください。電池容量が使用限界を超えると、表示パネルの"▭"マークが点滅または消灯し、カメラは作動しなくなります。
- 電池によってはその性質上、装着時一時的に電圧が低下し、"▭"マークが点灯することがあります。新品電池装着後すぐに"▭"マークが点灯した場合は、一度メインスイッチを"OFF"にし再度"ON"にしてください。この操作を行って"▭"マークが消えたらそのままお使いいただけます。

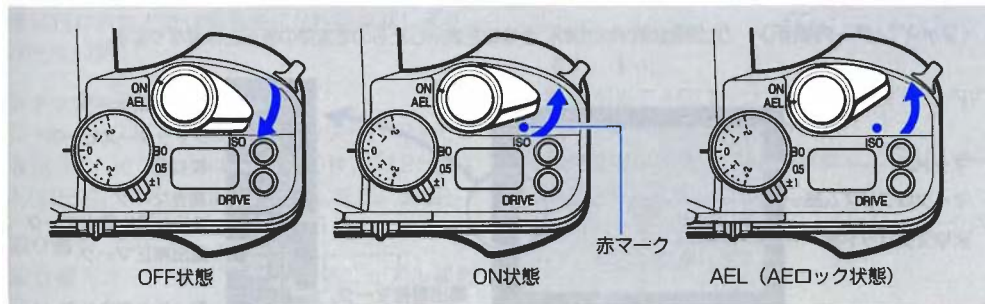
レンズの取り付け／取りはずし

〈レンズの取り付け〉

まずカメラのボディキャップとレンズの後キャップをそれぞれ回してはずします。次にレンズ側の赤点をカメラ側のレンズ指標に合わせてはめ込み、時計方向に“カチッ”と音がして止まるまで回して取り付けます。

- 赤点を指標に合わせずに差し込み、レンズを回しながらカメラのマウントにはめ込むと、レバー等に無理な力が加わりカメラの故障や破損の原因になります。

〈レンズの取りはずし〉

レンズ取りはずしボタンを押しながらレンズを反時計方向に止まるまで回し、前方に引き出してはずします。カメラからはずしたレンズにはレンズキャップと後キャップ、またカメラにはボディキャップをかぶせて保護することを忘れないでください。

- レンズ着脱の際、レンズ面やボディ内部に触れないでください。
- フィルムが入っている状態でレンズを着脱するときは、直射日光を避けてください。

メインスイッチ

電源の"OFF"、"ON"および"AEL"（AEロック）の切り替えを行います。

● 誤作動を防ぐためメインスイッチは、クリックの位置にとめてご使用ください。

OFF：赤マークが見えないとき

カメラの電源が切れ、"OFF"の状態になっています。カメラを使わないときは、不用意にシャッターが切れないようにメインスイッチを"OFF"にしてください。

"ON"マーク

カメラの電源が入ります。

"AEL"マーク

逆光での撮影や、動く被写体を一定の露出で連続撮影するなど、露出を固定（AEロック）したいときに使います。

● 詳しくはP49をご覧ください。

ファインダー内表示および表示パネル

ファインダー内表示は、次の操作をしたときに表示され、16秒間表示したあと自動的に消える省電設計になっています。

①メインスイッチを "ON" したとき。

②メインスイッチ "ON" の状態で、シャッターボタン半押しで表示されます。また表示中にダイヤル等を切り替えたときは、表示はさらに16秒間延長されます。

〈ファインダー内表示〉

ファインダー内表示は、絞り、シャッタースピード、などの表示の他に、露出メーターやフィルムカウンターなどが表示される、情報集中ファインダーです。

ストロボマーク：

TLAフラッシュシステム使用時、充電が完了すると "⚡" マークが点灯します。またTTL調光が的

確に行われたときは撮影後に2秒間点滅します。(P54、55)

シャッタースピード：
シャッタースピードは1/4000秒から16秒までが表示され"4000"は1/4000秒、"125"は1/125秒、"16""は16秒を表します。(P32)

絞り値：
絞り優先オート撮影（Av）とマニュアル撮影（M）のときはセットした絞り値を、シャッター優先オート撮影（Tv）とプログラムオート撮影（P）のときはシャッタースピードに応じた絞り値を表示します。(P32)

測光マーク：
測光方式とAEロックの表示をします。

評価測光のとき："[◉]"マークが点灯します。(P44)

中央重点平均測光のとき："[ ]"マークが点灯します。(P45)

スポット測光のとき："[•]"マークが点灯します。(P45)

評価測光でAEロック："[◉]"マーク内の"◉"マークが点滅します。

中央重点平均測光でAEロック："[ ]"マークが点滅します。

スポット測光でAEロック："[•]"マーク内の"•"が点滅します。

"M"マーク：
露出モードを"M"および"X"に設定したとき表示します。(P41、59)

露出補正マーク：
露出補正ダイヤルを"0"以外の値にすると"+"または"−"が点滅表示されます。(P47)

露出警告マーク"▲""▼"：
オート露出モード（Av、Tv、P）時、オート露出連動範囲外のオーバー"▲"、アンダー"▼"を点滅表示します。

露出メーター：

露出モードにより次の表示をします。

⑴オート露出撮影（Tv、Av、P、モード）
測光モードが“評価測光”時のみ表示し、中央重点平均測光値との差を表示します。(P40)

⑵マニュアル露出撮影“M”及びストロボ撮影“X”
露出設定値と（設定した測光モードでの）適正露出との差を表示します。（P41）

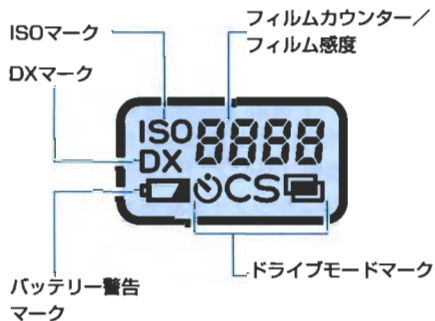
⑶バルブ撮影
表示されません。

フィルムカウンター：

フィルムの撮影枚数を表示します。（00～39、40枚目以降はE）また、次のような表示もします。

- セルフタイマー時の残り時間表示（10秒～00まで）。
- A・B・C撮影（3コマ連続自動露出補正）時の作動順序
- 撮影フィルム終了表示

〈表示パネル〉

（この図は説明のために全情報を表示したもので、実際の表示とは異なります。）

〈表示パネル〉

フィルムカウンター／フィルム感度：

フィルムの撮影枚数を表示します。また“ISOボタン”を押すと“フィルム感度”表示になります。フィルム感度を“DX”にセットしておくと、DXフィルム使用時はDXで読みとった“フィルム感度”表示をします。また、次のような表示もします。

- セルフタイマー作動残り時間
- バルブ撮影の経過時間
- A·B·C撮影時の撮影順序
- カスタム機能のセット状態
- 撮影フィルム終了時の表示

ISOマーク“ISO”：

フィルム感度表示にしたとき、あるいはフィルム感度をセットするときに表示されます。

DXマーク“DX”：

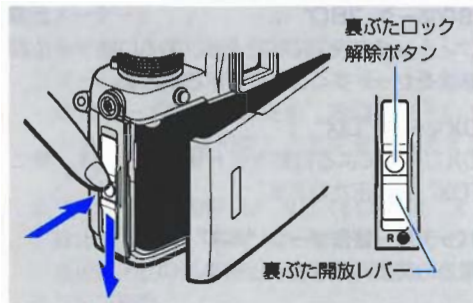
DXコードによる自動セット状態のときは、常に“DX”が表示されます。

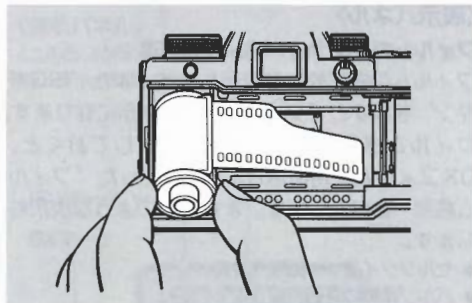
バッテリー警告マーク“ ”：

電池の交換時期を表示します。

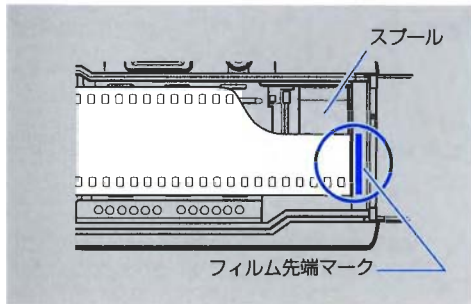
ドライブモードマーク：

セルフタイマー撮影モード“ ”
1コマ撮影モード“S”
連続撮影モード“C”
多重露出モード“ ”

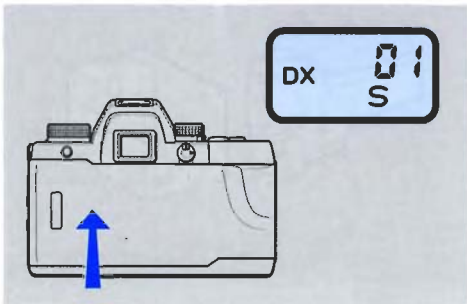
フィルムの入れかた

1 **裏ぶたロック解除ボタンを押しながら裏ぶた開放レバーを下へスライドさせ、裏ぶたを開けます。**

- フィルムを入れるときは、カメラの内側に入っている「保護シート」を必ず取りはずしてください。
- DX接点やデータバック用接点は、むやみに触れたり、汚したりしないように注意してください。
- フィルムの出し入れは、直射日光を避けてください。

2 **図のように、フィルムを斜めにして入れます。**

シャッター幕について

シャッター幕は精密部品ですので絶対に指で触れたりフィルムの先端でついたりしないでください。特にフィルムの先端がシャッター幕の上にある状態では、絶対にシャッターを切らないでください。

3 フィルムの先端をオレンジ色の "I" マークの位置まで引き出し、そのままスプールの上にのせます。

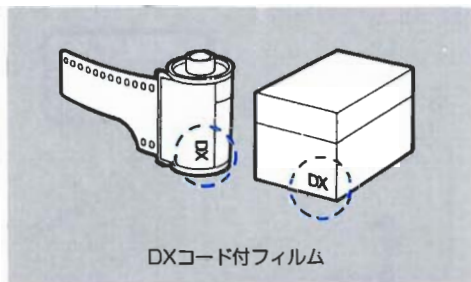
このとき図のようにフィルムが浮き上がらないようにしてください。

- フィルムの先が長く出ている場合はそのまま入れず、パトローネに巻き戻して長さを調節してください。

4 裏ぶたを確実に閉めます。

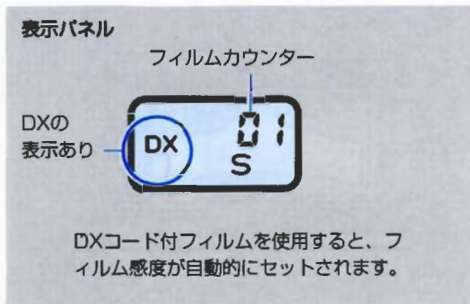
裏ぶたを閉めるとフィルムが自動的に1コマ目まで空送りされ、フィルムカウンターは "01" になります。

フィルムカウンターが "00" のままで点滅している場合は、フィルムが正しく送られていません。裏ぶたを開け、もう一度入れなおしてください。

フィルム感度のセットのしかた

DXコード付フィルム

フィルム感度のセットは、DXコード利用による自動セットと、任意の感度をセットする手動セットの2通りの方法があります。

メインスイッチ"ON"時、表示パネルに"DX"が表示されているときは、DXコードによる自動セットになります。DXコード付きのフィルムをご使用になる場合はそのままお使いください。**"DX"が表示されていないときは、必ずフィルム感度を手動でセットしてください。**

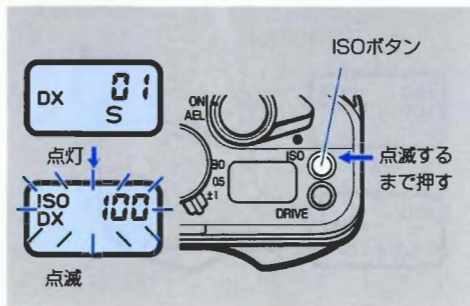
DXコード付フィルムを使用すると、フィルム感度が自動的にセットされます。

■ "DX"にセットしたとき（自動セットモード）

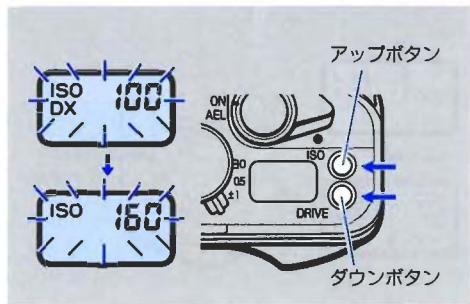
DXコード付きのフィルムを使うとき、カメラがフィルム感度を自動セットします。**DXコード付きフィルムはISO25~5000まで使用できます。**"DX"のマークと感度はフィルムの外箱に表示されています。

● DXコードのないフィルムを入れると、ISO100に自動セットされます。

■ 任意の感度をセットしたとき（手動セットモード）

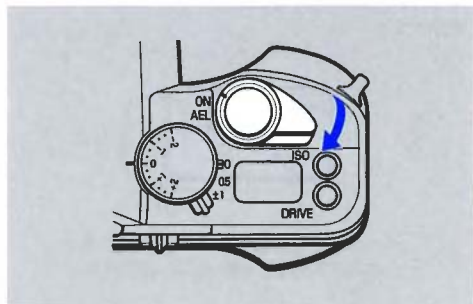
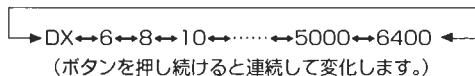
DXコードのないフィルムの感度セットや、DX表示と異なる感度に変えたい場合に使います。

- フィルム感度は、6〜6400の範囲で1/3段ごとにセットできます。
- 任意の感度にセットすると、DXコード付きフィルム使用時も手動セットした値になります。

1 メインスイッチを“ON”にして、ISOボタンを、表示パネルの「フィルム感度」表示が点滅するまで（約2秒）押し続けます。

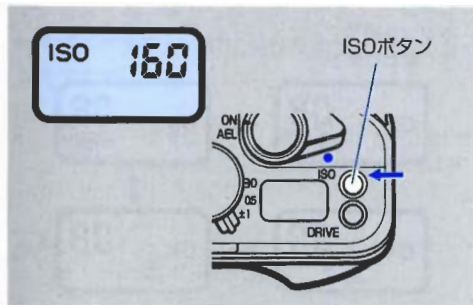
点滅に変わったら、ボタンから指を離してください。

2 "アップボタン"（ISOボタン）または"ダウンボタン"（ドライブモードボタン）を押して、"DX"または合わせたい感度値にします。

ボタンを1回押すと、フィルム感度が1/3段階ずつ変化します。

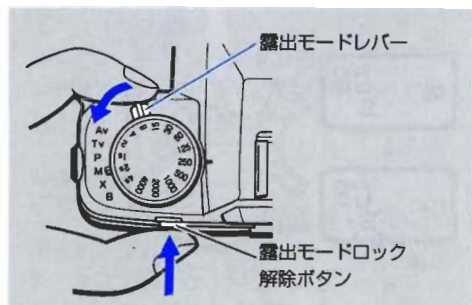
DX↔6↔8↔10↔……↔5000↔6400

（ボタンを押し続けると連続して変化します。）

3 メインスイッチをいったん"OFF"にしてください。これでセット完了です。

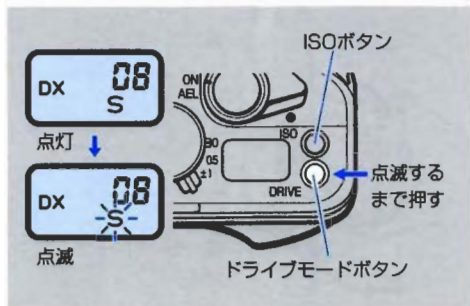
- シャッターボタンを半押しする、またはそのまま16秒間経過してもセットされます。
- セットが完了するとフィルム感度表示はフィルムカウンター表示に戻ります。

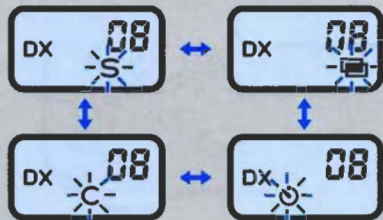
セットしたフィルム感度は、次にセットし直すまで記憶されます。

〈フィルム感度の確認のしかた〉

メインスイッチが“ON”の状態で、ISOボタンを押すと、図のように、フィルム感度が約16秒間表示パネルに表示されます。

DX自動セットのときは“DXとフィルム感度”が表示されています。

露出モードの切り替えに使用します。**露出モードロック解除ボタンを押しながら露出モードレバーを回し、露出モード指標をそれぞれの位置に合わせてください。**

各露出モードの詳細は、P34〜42をご覧ください。

ドライブモードボタン

撮影目的に応じて、1コマ撮影"S"→連続撮影"C"→セルフタイマー撮影"⏱"→多重露出撮影"▣"の4つのドライブモードを選ぶことができます。

1 **メインスイッチを"ON"にして、ドライブモードボタンを表示パネルの「ドライブモード」表示が点滅するまで（約2秒）押し続けます。**
点滅に変わったら、ボタンから指を離してください。

2 **"ドライブモードボタン"（ダウンボタン）または"ISOボタン"（アップボタン）を押して、希望のドライブモードにします。**

3 シャッターボタンを半押しすると、ドライブモード表示が点灯に変わります。これでセット完了です。

- メインスイッチを操作する、露出モードを変えるなど他の撮影操作を行うか、またはそのまま8秒間経過しても表示は点滅から点灯に変わりドライブモードがセットされます。
- セルフタイマーモード"[セルフタイマーアイコン]"および多重露出モード"[多重露出アイコン]"の場合は点滅表示のままです。
- "[セルフタイマーアイコン]"および"[多重露出アイコン]"にセット時、メインスイッチを"OFF"にすると"[セルフタイマーアイコン]"および"[多重露出アイコン]"は解除されます。また次にメインスイッチを"ON"にしたときドライブモードは"S"になります。

"S"…1コマ撮影

カメラのシャッターボタンを押すごとに1コマ分撮影され、次の巻き上げが行われて停止します。

"C"…連続撮影

カメラのシャッターボタンを押している間、最高約3コマ/秒の連続撮影ができます。(撮影コマ速度は、シャッタースピードやフィルム感度、データバックの写し込みあり/なし、使用する電池の状態などにより変化します。)

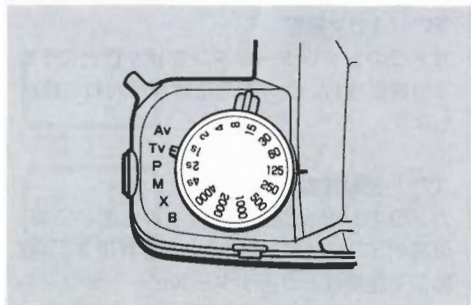
"[セルフタイマーアイコン]"…セルフタイマー撮影

セルフタイマー撮影になります。

詳しくはP62をご覧ください。

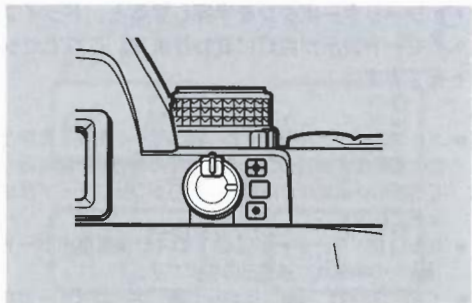
"[多重露出アイコン]"…多重露出撮影

多重露出撮影をするときにセットします。

詳しくはP60をご覧ください。

シャッターダイヤル

撮影フィルムへの露光時間を調節するもので、“Tv”（シャッター優先オート）および“M”（マニュアル露出）のとき使用します。シャッタースピードは、4S（4秒）〜4000（1/4000秒）の範囲で1段ごとにセットできます。

● シャッターダイヤルはクリックの位置に止めてご使用ください。

測光レバー

このカメラには評価測光“⊞”と中央重点平均測光“□”およびスポット測光“⊡”の3通りの測光方式がありその切り替えを行います。各測光方式の特徴はP44をご覧ください。

ピントの合わせかた

※フォーカシングスクリーンは交換することができます。
詳しくはP81をご覧ください。

(ピントが合っているとき)

(ピントが合っていないとき)

このカメラはフォーカシングスクリーンFU－4（水平スプリット/マイクロプリズム式）が標準装備されています。ピント合わせは、ファインダー中央の水平スプリット部、マイクロプリズム部、または周辺のマット面で行います。

〈水平スプリット部の場合〉

ファインダーをのぞきながら距離リングを回して、中央にある上下に分割された像が一致するようにします。ピントが合っていないときは、スプリット部の像がズレます。

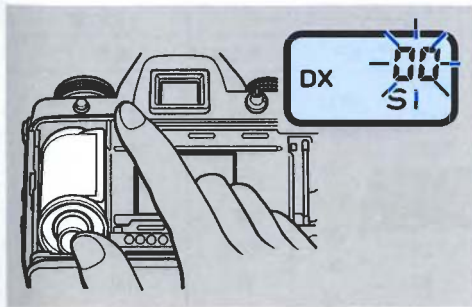
〈マイクロプリズム部、またはマット面の場合〉

レンズの距離リングを回して、マイクロプリズム部か周辺のマット面の像がはっきり見えるようにします。ピントが合っていないときは、マイクロプリズム部ではギザギザに、マット面ではボケます。

- 暗いレンズを使用したときや、高倍率での接写時には、ピントが合わせにくくなることがあります。このときは周囲のマット面でピントを合わせてください。
- 遠視・近視のかたは、別売のFLタイプの視度補正レンズをご利用ください。－5D～＋3Dの8種類があり、接眼部に取り付けて使用します。（P84）

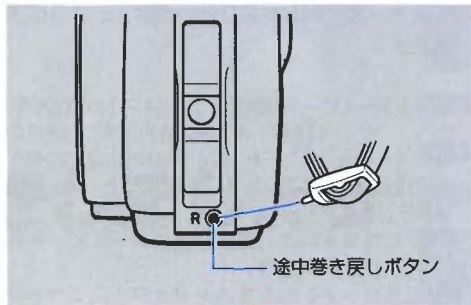
カメラの構えかた

ピントが合った美しい写真を撮るためには、カメラをしっかり構えることが大切です。ピントが悪い写真の多くはカメラぶれが原因です。

カメラは横位置の他、状況により縦位置で構えますが、いずれも自分にあった姿勢を研究してください。建物や木立などを利用して体やカメラを支えることも効果的な方法です。

フィルムを全部写し終えると自動的に巻き戻しが始まります。

巻き戻し中はフィルムカウンターが減算表示し、巻き戻しが終了するとモーターが停止しフィルムカウンターが"00"で点滅します。

モーターが停止し、フィルムカウンターが"00"で点滅していることを確認してから、裏ぶたを開けてフィルムを取り出してください。

- フィルムの取り出しは直射日光を避けてください。

- 巻き戻し後は、必ずフィルムを取り出してください。巻き戻し後は、一度裏ぶたを開けるまでカメラは作動しません。
- 取り出したフィルムは早めに現像に出しましょう。
- 規定枚数以上撮影すると、最後のコマは現像処理段階でカットされることがあります。

フィルムの途中での巻き戻すときは、途中巻き戻しボタンを、付属のストラップストッパーの先端で押してください。**(針などの鋭く尖ったものでは押さないでください。)**

シャッタースピードと絞り値の表示について

シャッタースピードおよび絞り値は次のように表示されます。

- シャッタースピードの表示は"4000"（1/4000秒）から"16" "（16秒）まで表示されます。カメラの露出モードが"Av"、"P"のときは絞りに応じた値を1/2段階ごとに、"Tv" "M"のときはセットした値を表示します。
  "X"にセットしたときはシャッタースピードは"125"が表示されます。
  "B"にセットしたときはシャッタースピードは"bLb"と表示されます。
- 絞り値は、使用レンズの絞り範囲内で1/2段階ごとに値が表示されます。ただし、1/2段のさらに間で作動するときは近い表示で示されます。たとえば絞り値がf3.3のときは"3.5"と表示されます。

シャッタースピード			絞り値	
AvまたはP		TvまたはM	全モード	
4000		4000	32	
	2800			27
2000		2000	22	
	1400			19
1000		1000	16	
	700			13
500		500	11	
	350			9.5
250		250	8.0	
	180			6.5
125		125	5.6	
	90			4.5
60		60	4.0	
	45			3.5
30		30	2.8	
	20			2.4
15		15	2.0	
	10			1.7
8		8	1.4	
	6			1.2
4		4		
	3			
2		2		
	0"7			
1"		1"		
	1"4			
2"		2"		
	2"8			
4"		4"		
	5"6			
8"				
	11"			
16"				

撮影をしましょう

露出モードの選択

撮影目的や用途に応じて、次の露出モードが選べます。

Av：絞り優先オート

絞りをセットすると、被写体の明るさに応じてカメラが自動的にシャッタースピードをセットします。被写界深度を利用しての撮影に適しています。

Tv：シャッター優先オート（MMレンズ装着時のみ）

シャッタースピードをセットすると、被写体の明るさに応じてカメラが自動的に絞りをセットします。動きのあるスポーツなどの撮影に適しています。

P：プログラムオート（MMレンズ装着時のみ）

あらかじめプログラムされている絞りとシャッタースピードの組み合わせの中から、被写体の明るさに適した組み合わせをカメラが自動的に選びます。

露出を気にする必要がないので作画に専念したり、シャッターチャンスに専念できます。

M：マニュアル露出

絞りとシャッタースピードを撮影意図や目的に合わせて任意にセットし、撮影する方法です。また意図的に露出オーバーやアンダーにすることも簡単にできます。

X：ストロボ撮影

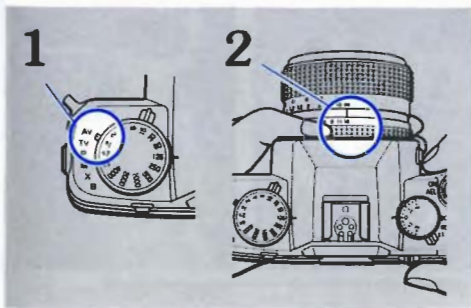
当社専用ストロボ連動接点のない、X接点のみの汎用ストロボを使用するときに、この位置にします。シャッタースピードは1/125秒になります。

詳しくは、「TLAストロボ以外のX接点を利用した他のストロボによる撮影」（P59）をご覧ください。

B：バルブ

長時間露光を必要とする夜間撮影や天体撮影を行うときに使用します。

- AEレンズ装着のときは、"Tv"、"P" で撮影することはできません。"Tv"、"P" にセットされていても、実際の撮影は "Av" で行われます。
- レンズ未装着のときは、"Tv"、"P" にセットされていても自動的に "Av" になります。

絞り優先オート撮影 [Av]

作例1：F1.4

作例2：F16

1 露出モードレバーを "Av" にセットします。

2 絞りをセットし、撮影します。

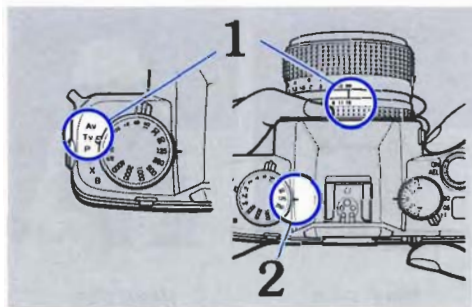
レンズの絞りリングを回して絞りをセットすると、絞りに応じた適正シャッタースピードが自動セットされ、ファインダー内に、セットした絞りと自動セットされたシャッタースピードが点灯します。

シャッタースピードダイヤルはどの位置にセットしていてもかまいません。

作例1：絞りを開けて撮影すると、鮮明に写る範囲（＊被写界深度）が狭くなります。被写体を浮かび上がらせ、背景をぼかしたいときなどに利用します。

作例2：絞りを絞り込んで撮影すると鮮明に写る範囲（＊被写界深度）が広くなります。被写体も背景も鮮明に写したいときなどに利用します。

＊目的に合わせて絞りを調節してください。また、被写界深度の詳細はP70をご覧ください。

シャッター優先オート撮影［Tv］（MMレンズ装着時のみ）

1 露出モードレバーを“Tv”にし、レンズの絞りを緑色の最小絞り（絞り値の最も大きい数値）にセットします。

MMタイプのレンズでは、プログラムオート、またはシャッター優先オート撮影時のセット位置として、絞りリングの最小絞りが緑色で表示されています。

2 シャッタースピードをセットし、撮影します。

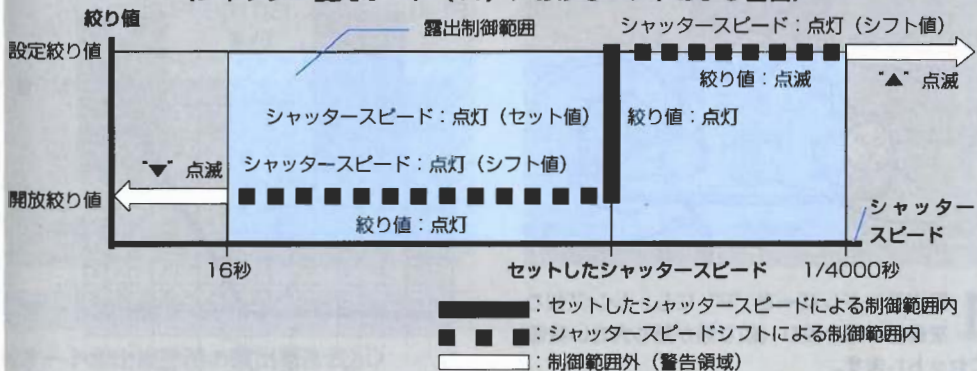
作例1：速いシャッタースピード

作例2：遅いシャッタースピード

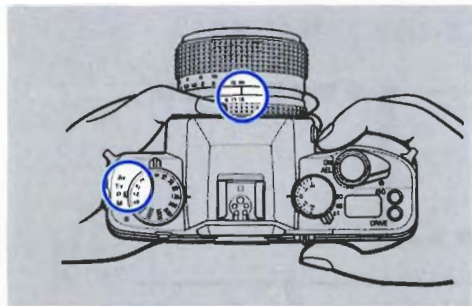
シャッターダイヤルを回してシャッタースピードをセットすると、シャッタースピードに応じた適正絞りが自動セットされ、ファインダー内に、セットしたシャッタースピードと自動セットされた適正絞りが点灯表示します。

作例1：被写体の動きの瞬間を撮影したいときは、速いシャッタースピードにセットします。

作例2：水の流れ等を表現したいときは、遅いシャッタースピードにセットします。

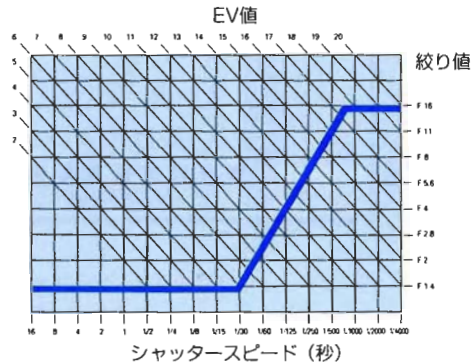
- 遅いシャッタースピードのときはカメラぶれ防止のため三脚をご使用ください。

"Tv" モードの場合、セットしたシャッタースピードでは、適正絞り値が絞り範囲外になるとき、適正露出を得るため自動的に違うシャッタースピードにシフトされ、常に適正露出になるように調整されます。このときシャッタースピード表示はシフトした値になります。自動シフトしたシャッタースピードは、16秒～1/4000秒まで連動します。

- セットしたシャッタースピードよりも適正シャッタースピードが早い場合には絞り表示が点滅します。このときは、絞りが最小絞りになっているか確認してください。
- MMレンズを最小絞りとは異なる絞りにセットしたときは、セットした絞りと開放の間で絞りが自動セットされます。

プログラムオート撮影［P］（MMレンズ装着時のみ）

1 露出モードレバーを“P”にし、レンズ絞りを緑色の最小絞り（絞り値が最も大きい数値）にセットします。

2 撮影します。
明るさによりプログラムされた絞りとシャッタースピードの組み合わせが自動的にセットされ、ファインダー内に、自動セットされた絞りとシャッタースピードが点灯表示されます。

プログラムオート制御図

（F1.4レンズ使用、ISO100·F16にセット）

〈プログラムオート制御図〉

プログラムオートでの絞りとシャッタースピードの組み合わせは図のようになります。

- MMレンズを最小絞りとは異なる絞りにセットしたときは、セットした絞りと開放の間で絞りが自動セットされます。

オート露出撮影(Av、Tv、P)時のご注意

〈オート露出撮影時の露出警告表示〉

露出オーバー警告

露出警告マーク"▲"が点滅するときは、露出オーバーになります。被写体が明るすぎますので、絞りを調整し直して、"▲"が消えるようにしてください。また、別売りのNDフィルター（光量制限用）で光を調整することができます。

露出アンダー警告

露出警告マーク"▼"が点滅するときは、露出アンダーになります。被写体が暗すぎますので、照明を加えて被写体を明るくしたり、絞りを変えたりして"▼"が消えるようにしてください。また、専用のストロボを使うと明るくきれいな写真が撮れます。

- 露出オーバー/アンダー警告時でも、シャッターボタンを押せば撮影できます。

〈評価測光モード時の露出メーター表示〉

測光モードを"評価測光"にすると露出メーターが点灯し、中央重点平均測光値との差を表示します。

中央のバーのみ表示のときは中央重点平均測光値との差はありません。差が0.5EVごとにバーが点灯表示されます。差が2.0EV以上のときは"バーと▲"が点灯表示されます。

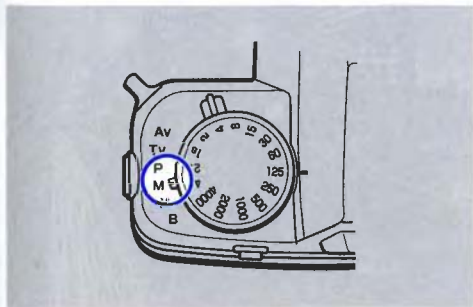
- "▲"または"▼"が点滅するときは露出オーバーまたは露出アンダー警告です。P39の説明に従って露出を調節してください。
- 測光モードが中央重点平均測光"[ ]"及びスポット測光"[•]"のとき、露出メーターは表示されません。
- 各測光モードの特徴についてはP44をご覧ください。

〈アクセサリー使用上のご注意〉

開放F値が5.6より暗いレンズ、または自動絞りの連動しないアクセサリー（オートベローズPC、マイクロスコープアダプター、接写リング7.5mm、リバースリングなど）を使用する場合は次のことに注意してください。

①ファインダー内の絞り表示は"1.4"に固定されますが測光機能は正常に作動します。

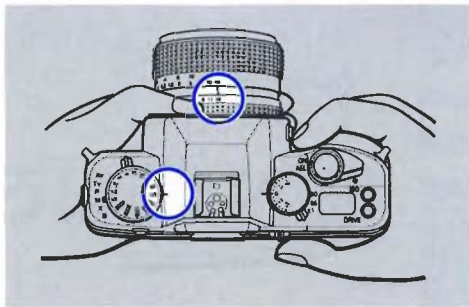
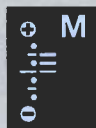
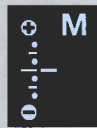
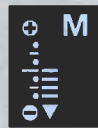
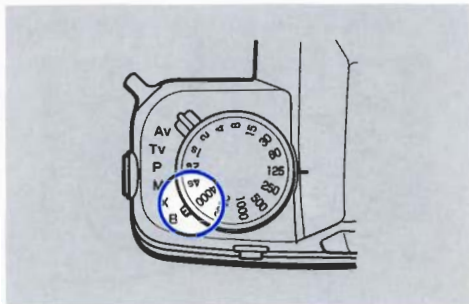
②"Tv"、"P"での撮影はできません。"Av"または"M"にして撮影してください。

マニュアル露出撮影【M】

1 露出モードレバーを“M”にセットします。

2 シャッタースピードと絞りをセットし、撮影します。

シャッタースピードはシャッターダイヤルで、絞りはレンズの絞りリングでセットします。

ファインダー内には、セットしたシャッタースピードと絞りが点灯表示されます。

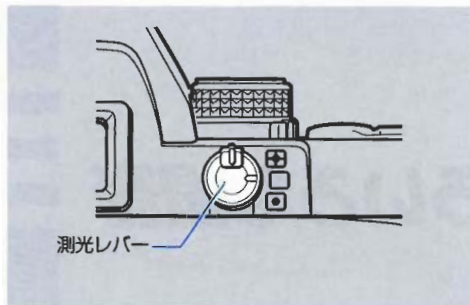
露出メーターにはセットした測光モードでの適正

露出との差が点灯表示されます。シャッターダイヤルまたはレンズの絞りリングを動かし、露出メーター表示を“適正”にして撮影してください。

バルブ撮影［B］

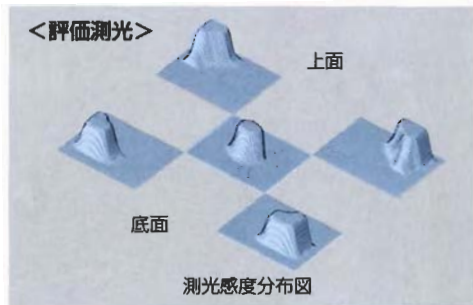
1 露出モードレバーを"B"にセットします。

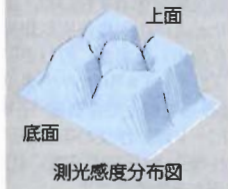
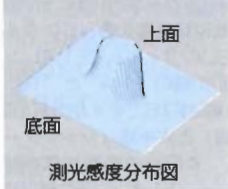
2 絞りをセットし撮影します。

シャッターボタンを押している間シャッターが開いて露光されます。

- カメラぶれを防ぐため、三脚で固定するか、安定した台などに置き、別売りのケーブルスイッチLをカメラに接続して撮影してください。
- 露光中、表示パネルのフィルムカウンターはバルブ撮影の経過時間を示すタイマー表示に切り替わります。表示は"0′00"から"9′59"（9分59秒）までカウントされ以後その繰り返しになります。
- 露光中は、ファインダー内表示がすべて消えます。

いろいろな撮影

測光方式

このカメラには評価測光と中央重点平均測光及びスポット測光の3通りの測光方式があり、測光レバーで切り替えます。撮影条件や撮影意図により使い分けると、より精度の高い効果的な写真撮影が行えます。

〈評価測光〉（ マーク）

評価測光は、撮影画面を図のように5分割し、それぞれの部分を独立して測光し得られたデータから被写体の条件に最適な露出値を決めます。このため、**一般的な撮影はもちろん、逆光などの撮影でも自動的に露出補正されますので、露出補正を気にせず撮影することができます。**

〈中央重点平均測光〉（▢ マーク）

主にファインダー画面中央部の被写体の明るさを重点的に、かつ周辺部の明るさも加味して測光を行い、露出値を決定する方式です。光の変化が激しいところでもよく対応しますので、**一般の撮影はもちろん、動きの激しいもの**でも容易に露出を決めることができます。

〈スポット測光〉（⊡ マーク）

ファインダー画面中央のほぼマイクロプリズム部の外周の円内にあたる被写体の明るさのみ測光して、露出を決める方式です。
たとえば、逆光の人物や特定の部分にライティングを活かした舞台撮影など、**被写体と背景の明るさが極端に違う場合**、また画面効果を考えて、**特に被写体の一部分だけを測光して撮影したい場合**などは、このスポット測光を利用します。

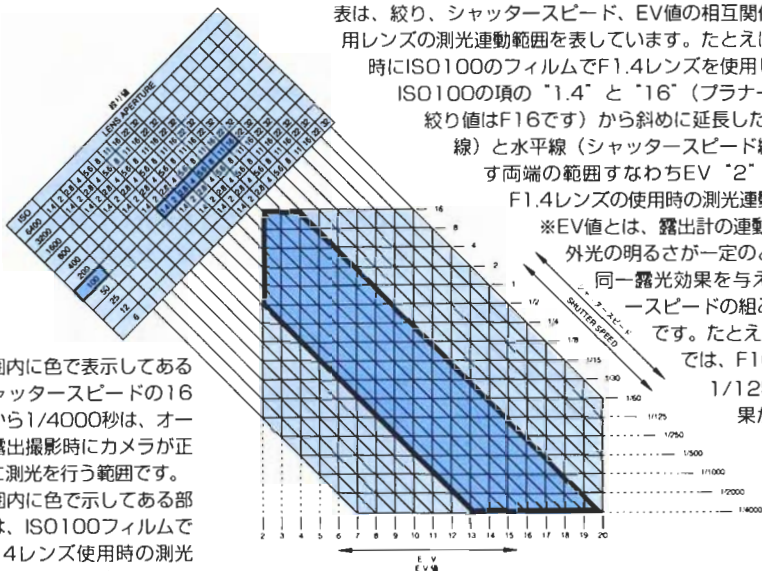
> このカメラは測光系の特性により、開放F値が5.6より暗いレンズ使用時、またはムターや接写アクセサリー（オートベローズPC、マイクロスコープアダプター、オート接写リング、リバースリング等）を使用して実絞り値が5.6より暗くなるときは、スポット測光を行うと測光誤差を生じることがあります。このような条件で使用するときは中央重点平均測光にして撮影してください。

〈測光連動範囲〉

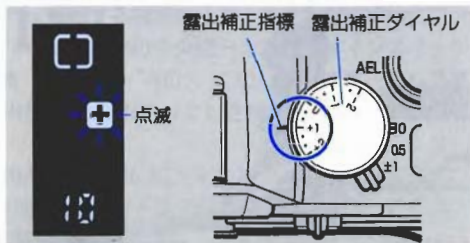
表は、絞り、シャッタースピード、EV値の相互関係を示すもので、使用レンズの測光連動範囲を表しています。たとえば中央重点平均測光時にISO100のフィルムでF1.4レンズを使用した場合、絞り表のISO100の項の"1.4"と"16"(プラナーT*50mmの最小絞り値はF16です)から斜めに延長した線上で垂直線(EV線)と水平線(シャッタースピード線)が交わる点が示す両端の範囲すなわちEV"2"からEV"20"がF1.4レンズの使用時の測光連動範囲です。

※EV値とは、露出計の連動範囲を示す数値で、外光の明るさが一定のときに、フィルムに同一露光効果を与える絞りとシャッタースピードの組み合わせを示すものです。たとえば、表によりEV13では、F16、1/30秒でもF8、1/125秒でも同じ露光効果が得られることがわかります。

□範囲内に色で表示してあるシャッタースピードの16秒から1/4000秒は、オート露出撮影時にカメラが正常に測光を行う範囲です。

■範囲内に色で示してある部分は、ISO100フィルムでF1.4レンズ使用時の測光連動範囲を示します。

撮影のとき、主要被写体とその背景に極端な明暗差があるために、そのままでは主要被写体に適正露出が得られない場合、あるいは意図的に露出オーバー、アンダーの写真を撮りたいときには、次の3通りの露出補正方法があります。

〈1. 露出補正ダイヤルの利用〉

露出モードが"Av"、"Tv"、"P"、"M"いずれの場合も通常は露出補正ダイヤルを"0"にセットしておきますが、露出を補正するときは、露出補正ダイヤルを回して希望する補正値を露出補正指標に合わせてください。補正値は＋2EV～－2EVまでの範囲内で1/3EVごとにセットすることができます。露出補正ダイヤルを"0"以外に合わせると、ファインダー内に、補正に合わせて"＋"または"－"マークが点滅し補正中であることを表示します。

露出モード	露出補正する内容
絞り優先オート (Av)	シャッタースピード
シャッター優先オート (Tv)	絞り
プログラムオート (P)	絞りとシャッタースピード

- "M"時は、露出補正ダイヤルによる露出補正はできません。露出を補正するときは、露出メーターに適正露出との"差"が表示されますので、シャッタースピードダイヤルまたは絞りリングを動かし、メーター表示を希望する"差"（補正量）になるようにして撮影してください。
- 撮影終了後は、必ず補正ダイヤルを"0"に戻してください。

（補正なし）
（＋補正）

逆光撮影などのときは・・・

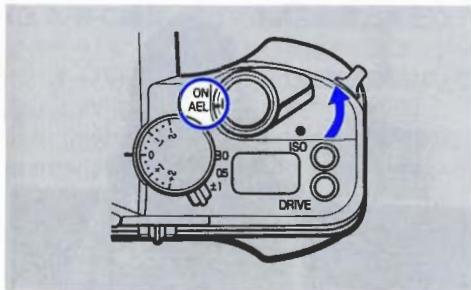
“＋1/3”～“＋2”の範囲で補正します。

中央重点平均測光の場合、逆光や明るい空、海をバックにした人物、または窓辺の人物などのように明るい背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、人物は露出アンダーになり、シルエットのように暗くなります。
このようなときは、露出を＋1/3～＋2の範囲で補正して、露出を多く与えます。

（補正なし）
（－補正）

暗い背景などのときは・・・

“－1/3”～“－2”の範囲で補正します。

スポットライトに照らし出された人物などのように、暗い背景が撮影画面に占める割合が大きい場合、中央重点平均測光で撮影すると人物は露出オーバーになり白っぽくなります。このようなときは、露出を－1/3～－2の範囲で補正して、露出を少なくして撮影します。

〈2. AEロックの利用〉

オート露出撮影時に、被写体の露出（絞りとシャッタースピードの組み合わせ）を記憶する機構です。逆光時での撮影や動く被写体を一定の露出で連続撮影するときなど、露出を固定したいときに使います。メインスイッチを"AEL"にセットすると、セット時点の露出がカメラに記憶され、そのままシャッターボタンを押すと背景や明るさの変化に関係なく記憶された露出でシャッターが切れます。

1 意図する構図のうち、まず主要被写体にファインダーの中央部分を向け、メインスイッチを"ON"→"AEL"に切り替えます。これで露出が固定（AEロック）されます。

特に狭い範囲に露出を合わせたいときは、測光レバーをスポット測光にしてAEロックしてください。

- AEロック中は、ファインダー内の測光マークが点滅に変わります。
- AEロックのセットは、ファインダー内表示が点灯しているときに行ってください。

2 ファインダーを元の意図した構図に戻して撮影します。

- AEロック中は、露出が記憶され続け、何度でも同じ露出値で撮影できます。表示は省電のため16秒経過後に消灯します。
- 連続撮影（ドライブモード"C"）するときも、あらかじめ被写体の明るさをAEロックしておけば背景の変化による影響を受けずに同じ露出の写真が得られます。
- このカメラは、シャッタースピードと絞りの組み合わせで得られる露出を記憶する、像面光量記憶方式を採用しています。例えば、"Av"のときは、AEロック後に絞りを変えるとシャッタースピードも追従して変化し、全体の露出量を一定に保ちます。
- AEロック中に露出補正ダイヤルを変更すると、露出は次のように変化します。

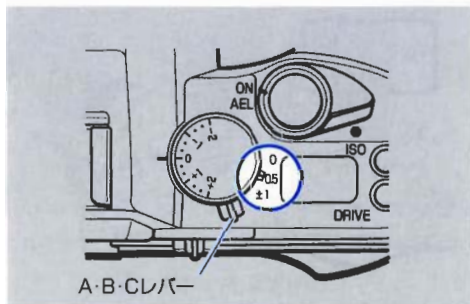
露出モード	露出補正する内容
絞り優先オート　(Av)	シャッタースピード
シャッター優先オート(Tv)	絞り
プログラムオート　(P)	絞りとシャッタースピード

〈3. A･B･C撮影（3コマ連続自動露出補正)〉

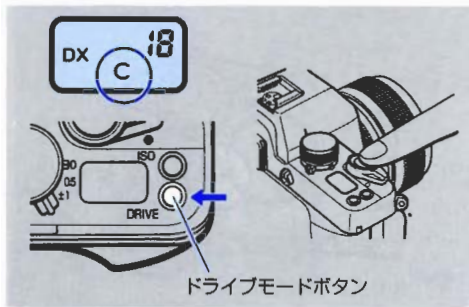
このモードにセットすると、自動的にスタンダード、オーバー、アンダー、と3段階の露出バリエーションで連続撮影ができます。
非常に微妙な露出条件のもとででも、露出決定に気を取られることなくシャッターを押し続け、チャンスを確実にものにすることができます。

※A･B･C：Automatic Bracketing Control

A･B･C撮影は、シャッタースピードまたは絞りをコントロールして自動露出補正を行います。

露出モード	コントロール内容
絞り優先オート (Av)	シャッタースピード
シャッター優先オート (Tv)	絞り（絞りの制御範囲を越える場合はシャッタースピードを自動的にコントロールします。)
プログラムオート (P)	シャッタースピード
マニュアル (M)	シャッタースピード

A･B･Cレバー

1 A･B･Cレバーを動かし、補正幅をセットすると、A･B･C撮影に切り替わります。補正幅は±0.5EV、±1EVの2種類が設定できます。

ドライブモードボタン

- 露出補正ダイヤルを"0"以外にセットすると、その補正値を基準にしたA·B·C撮影になります。
- 撮影するごとに測光しなおし、その時の測光値に対して補正を行います。周囲の明るさの変化による影響を受けずにA·B·C撮影がしたいときは、あらかじめAEロックをしてから撮影することをおすすめします。
- A·B·C撮影が終了したら、必ずA·B·Cレバーを"0"に戻してください。
- ストロボを併用するA·B·C撮影はできません。

2 ドライブモードを連続撮影"C"にして、シャッターボタンを押し続けます。

セットした補正幅に従って、スタンダード、オーバー、アンダー、の順で撮影し、3コマ撮影し終わると止まります。

ドライブモードを"S"にすると1コマごとのA·B·C撮影になります。
ドライブモードを"ᦿ"にすると、10秒後に連続撮影によるA·B·C撮影になります。

A·B·C撮影中は撮影順序を示すため、フィルムカウンターが次のように変化します。

スタンダード：両方の桁が点滅
オーバー　　：左側の桁のみが点滅
アンダー　　：右側の桁のみが点滅

スタンダード　　　オーバー　　　アンダー

例えば18コマ目からA・B・C撮影を行った場合は次のようになります。

	1コマ目	2コマ目	3コマ目	（以後繰返し）
補正:	スタンダード	オーバー	アンダー	スタンダード
カウンター:	18	19	20	21
表示:	左右点滅	左側点滅	右側点滅	左右点滅

- 補正幅がカメラの補正限界を越えるときは、限界補正値で撮影されます。
- 途中で中止するときは、A·B·Cレバーを "0" にしてください。
- A·B·C作動中にメインスイッチを "OFF" にして再度 "ON" にすると、A·B·C撮影はまた1回目より順に3コマ分行われます。

ストロボ撮影

室内や夜間の撮影で、シャッタースピードが1/30秒以下になるときは、ストロボの使用をおすすめします。このカメラとコンタックスTLAフラッシュシステムを組み合わせるとカメラ側でストロボ光を自動制御する"TTLダイレクト測光"による撮影が行えます。
TLA360ストロボをご使用のときは、必ず「別売アクセサリー"CONTAX TLA360ストロボ"」の項（P73）をあわせてご覧ください。
また、X接点のみの汎用ストロボをご使用する場合には、露出モードレバーを"X"にセットしてご利用いただけます。

〈TTLダイレクト測光による撮影〉

1 カメラのアクセサリーシューにストロボを取り付け、ストロボの電源を入れます。

2 ストロボを"TTLオートモード"にセットします。

充電が完了するとファインダー内に"⚡"マークが点灯しカメラの露出モードにより次のようにシャッタースピードが自動セットされます。

■Av（絞り優先オート）のとき

自然光の測光値	自動セットシャッタースピード	（表示）
16秒～1/60秒	1/60秒	"60"が点灯
1/60秒～1/125秒	1/60秒～1/125秒	"60"が点灯～"125"が点灯
1/125秒を越え～1/4000秒	1/125秒	"125"が点灯

■Tv（シャッター優先オート）のとき

シャッターダイヤルのセット	自動セットシャッタースピード	（表示）
4秒～1/125秒	4秒～1/125秒（シャッターダイヤルのセット値のまま）	
1/250秒～1/4000秒	1/125秒	"125"が点灯

■P（プログラムオート）のとき

自然光の測光値	自動セットシャッタースピード	（表示）
16秒～1/60秒	1/60秒	"60" が点灯
1/60秒～1/125秒	1/60秒～1/125秒	"60" が点灯～"125" が点灯
1/125秒～1/4000秒	1/125秒	"125" が点灯

■M（マニュアル）、X（ストロボ）、B（バルブ）のとき

- "M" のときはシャッタースピードが自動セットされません。必ず1/125秒以下にセットしてください。
- セットしたシャッタースピードがファインダー内に点灯表示されます。
- "X" のときはシャッタースピードが1/125秒にセットされ、ファインダー内に "125" が点灯表示されます。
- "B" のときは "バルブ撮影" になり、ファインダー内に "bLb" が表示されます。

3 絞りをセットして撮影します。

露出モード	絞り
Av、Tv、M、X、B	絞りをセットしてください。セットした絞りで撮影されます。
P	最小絞り（緑色）にセットしてください。自動セットされます。（F4：ISO100）明るいときは自動的に絞り込みます。

- "Tv" モードのとき絞りは自動セットされません。ストロボ撮影時は必ず絞りをセットしてください。
- 撮影後調光が行われたときはファインダー内 "⚡" マークが2秒間点滅します。
- 撮影後 "⚡" マークが点滅しないときは露出アンダーになりますので、絞りや撮影距離を変えて撮影し直してください。
- 近接撮影時、"⚡" が撮影後点滅しても露出オーバーになることがあります。ストロボの取扱説明書記載の撮影範囲で撮影してください。
- A·B·Cレバーは必ず "0" にしてください。
- ドライブモードが "C"（連続撮影モード）の場合は、ストロボの性能をご確認ください。
- フィルム感度はISO25～800に連動します。（露出補正は含みません。）

通常のストロボ撮影

〈スローシンクロ撮影〉

ストロボ撮影で夕景や夜景などの情景を生かした撮影を行うには1/30秒以下のスローシンクロ撮影が有効です。TLAストロボのTTLオートモードを利用すると簡単な操作でスローシンクロ撮影が行えます。

● スローシンクロ撮影ではシャッタースピードが遅くなりますので、カメラぶれ防止のために三脚をご使用ください。

■露出モードが"Av"、"Tv"、"P"のとき

構図を決め、メインスイッチを"AEL"にセットします。シャッタースピードが、自然光の測光値にロックされますのでストロボの充電完了を確認して撮影してください。

■露出モードが"M"のとき

シャッタースピードを1/30秒以下にセットします。絞りを動かして自然光の測光値に露出を合わせ露出メーターが"適正"になるようにし、ストロボの充電完了を確認して撮影してください。

ストロボを使用しない場合

〈デイライトシンクロ撮影〉

屋外の撮影時に、たとえば強い日差しの下や逆光下でそのまま人物を撮影すると、人物は暗くなりがちです。このようなときは、TLAストロボを使ってTTLオートモードで撮影すると人物も背景もきれいに描写することができます。

■露出モードが“Av”、“Tv”のとき

ストロボ充電完了後、“▲”が点滅した場合は、絞りを絞り込んで“▲”を消して撮影してください。

■露出モード“P”のとき

明るいところでは、自動的に露出が調整されてデイライトシンクロ撮影になります。

■露出モードが“M”、“X”のとき

“M”のときは、シャッターダイヤルを“125”以下にセットしてください。
絞りを調整し、ファインダー内露出メーターが“適正”になるようにして撮影します。

[露出補正ダイヤルの利用]

TTLオート撮影では、ストロボの発光量はカメラの露出補正ダイヤルに連動します。ストロボ光量を調整して効果を出したいときは、露出補正ダイヤルを利用してください。

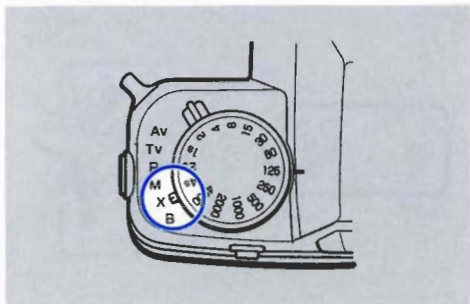
後幕シンクロ撮影

先幕シンクロ撮影

〈後幕シンクロ撮影〉

後幕シンクロは動きのある被写体をスローシンクロ撮影するときに効果があります。
通常のストロボ撮影は、シャッターの先幕が走行を終えた直後にストロボを発光（先幕シンクロ）させて撮影します。このカメラと、後幕シンクロ機能のある当社ストロボとを組み合わせると、後幕が走行を始める直前にストロボを発光（後幕シンクロ）させることができます。

ストロボ光で照らされた被写体の後ろに、自然光で照らされた被写体の動きが流れるように写り、自然な動きを表現できます。

- 露出制御は、通常のストロボ撮影（先幕シンクロ）と同様です。

〈TLAストロボ以外のX接点を利用した他のストロボによる撮影〉

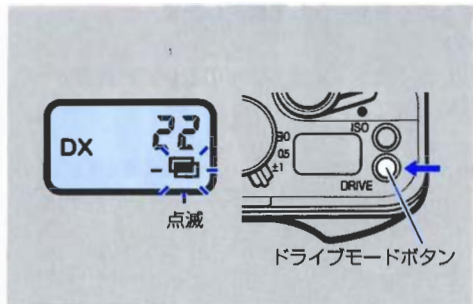
1 カメラにストロボを取り付け、露出モードレバーを“X”にセットします。

シャッタースピードは、1/125秒になります。

- シャッタースピードはシャッターダイヤルがどの位置にあっても変わりません。

2 絞りをセットして撮影します。

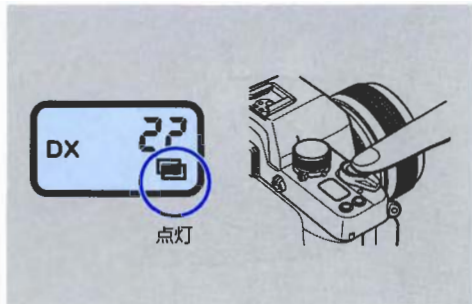
絞りは、使用するストロボの取扱説明書に従って決めてください。

- ダイレクト接点式でない、コードを必要とするストロボは、カメラ側面のシンクロターミナルに接続してください。

多重露出撮影

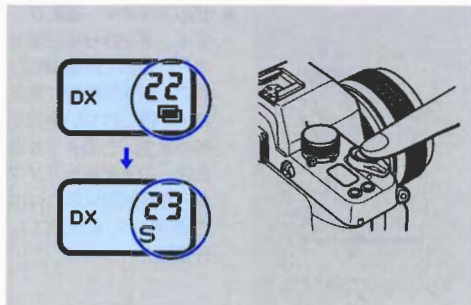
同じ画面に、違う種類の被写体、あるいは同じ被写体を重ねて写し込むことにより、独特の写真表現ができます。

1 ドライブモードを多重露出撮影“▣”にセットします

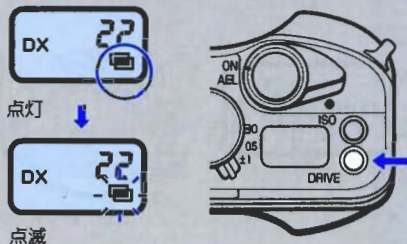
＊セットのしかたは“ドライブモードボタン”（P26）をご覧ください。

表示パネルに“▣”マークが点滅表示します。

2 シャッターボタンを押します。

1回目の露光を行い、次の露光のためにシャッターだけがセットされます。

表示パネルの“▣”マークが点灯表示に変わります。

3 再度シャッターボタンを押します。

2回目の露光を行った後、フィルムが送られて多重露出撮影が終了します。

- 多重露出撮影が終了すると、ドライブモードは〝S〟に切り替ります。
- 1回目露光の後、メインスイッチを〝OFF〟にしても、次に〝ON〟したときは多重露出の続き（2回目の露光）になります。
- 多重露出撮影モードにセットした後、撮影開始前に他のドライブモードにすると多重露出撮影は中止されます。
- 1回目露光後の多重露出撮影は中止できませんのでご注意ください。

- 〝▣〟マークが点滅時にメインスイッチを〝OFF〟にすると多重露出撮影は解除されますのでご注意ください。また次にメインスイッチを〝ON〟にするとドライブモードは〝S〟になります。

3回以上の多重露出を行いたいときは・・・・

項目〝2〟(P60) 終了後、ドライブモードボタンを押して、〝▣〟マークを点灯から点滅に変えます。この状態でシャッターボタンを押すとさらに1回多重露出が行えます。この操作を繰り返すことにより、希望回数分の多重露出が行えます。

セルフタイマー撮影

● セルフタイマー撮影でファインダーから目を離すオート撮影では接眼部からの入射光の影響で適正露出が得られない場合があります。このような場合は、逆入光防止アダプターを接眼部に取り付けて使用してください。(P93)

1 ドライブモードをセルフタイマー撮影"⏱"にセットします。

＊セットのしかたは"ドライブモードボタン"(P26)をご覧ください。

2 ピントを合わせ、シャッターボタンを押してください。

セルフタイマーが作動し、10秒後にシャッターが切れます。セルフタイマー作動中、カメラ前面のセルフタイマーLEDが点滅します。

● セルフタイマー撮影時は三脚をご使用ください。
● バルブ設定時はセルフタイマーは使用できません。
● セルフタイマー作動中にシャッターボタンを押すと、セルフタイマー作動が最初に戻り、10秒後にシャッターが切れます。
● セルフタイマー作動を途中で中止するときは、メインスイッチを"OFF"にするか、ドライブモードボタンを押してください。

その他

カスタム機能

このカメラには、次の表のように、5項目の“カスタム機能”を搭載しています。お買い上げ時は、標準的な機能（内容番号の標準設定“0”）にセットしてあります。（この取扱説明書では“0”の状態を説明しています。）

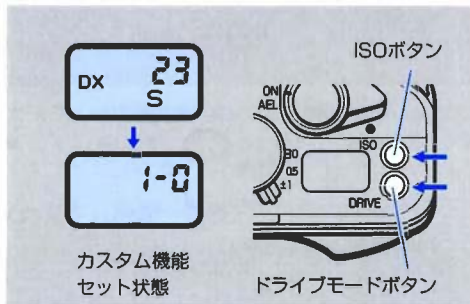
カスタム機能を変更したい場合は「カスタム機能のセットのしかた」（P66）をご覧ください。

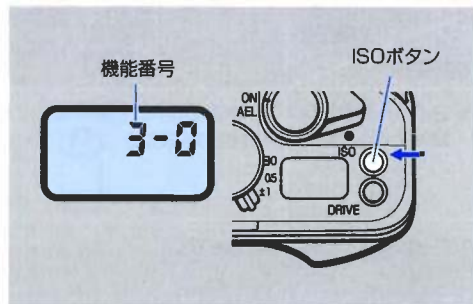
● カスタム機能をセットするとカメラの機能や操作手順が変わります。この「カスタム機能」のページをよくお読みいただき、正しくご使用ください。

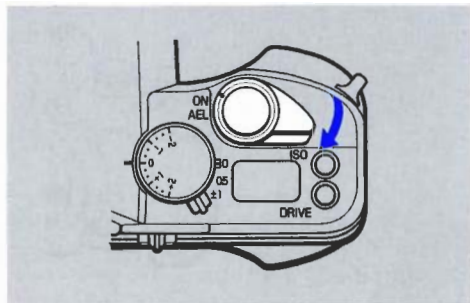
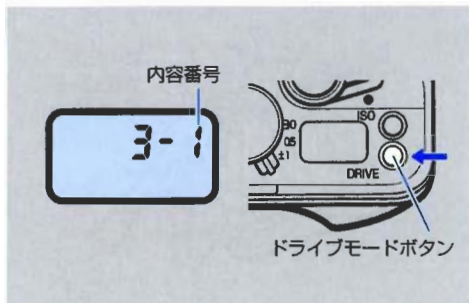
〈カスタム機能一覧表〉

機能番号＼内容番号	標準設定 (0)	変更設定 (1)
1：AEロックの方法	メインスイッチを“AEL”にする。（連続AEロック）	シャッターボタンを半押ししている間、AEロックする。（ストロボ充電完了時を除く） ● メインスイッチによる連続AEロック時は連続AEロックが優先します。
2：A・B・C撮影順序の切り替え	撮影順序が　スタンダード↓オーバー↓アンダー	撮影順序が　オーバー↓スタンダード↓アンダー

機能番号 \ 内容番号	標準設定 (0)	変更設定 (1)
3: フィルム巻き戻し時のフィルム残り	フィルムをパトローネ内にすべて巻き込む。	フィルムの先端をパトローネの外に残す。
4: フィルム終了時の巻き戻し	自動巻き戻し	途中巻き戻しボタンを押す。
5: フィルムの巻き上げ	裏ぶたを閉めると自動巻き上げ	裏ぶたを閉め、メインスイッチを "ON" にしてシャッターボタンを押す。

カスタム機能のセットのしかた

1 **メインスイッチ“ON”時、表示パネルが図のような表示になるまで、“ISOボタン”と“ドライブモードボタン”を同時に押し続けます。(約2秒)**

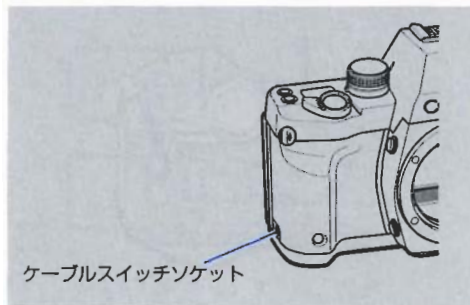
図のような表示（カスタム機能セット状態）になったら、一度ボタンから指を離してください。

2 **“ISOボタン”を押して、セットする「機能」の番号を選び、表示させせます。**

- ISOボタンを押すと、「機能」の番号が、1→2→3→4→5→1（以後繰り返し）と変わります。。

3 “ドライブモードボタン” を押して、「内容」の番号を選択します。

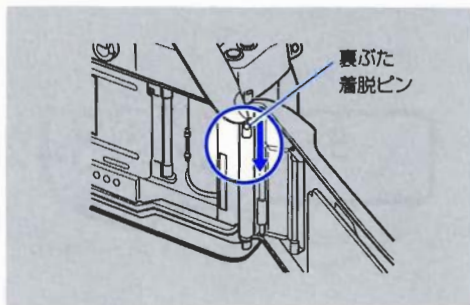
- ドライブモードボタンを押すごとに「内容」の数字が変わりますので、セットする番号（“0” または “1”）にしてください。

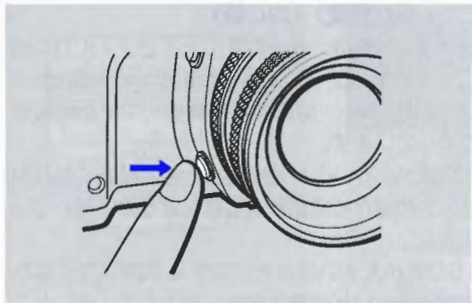
4 メインスイッチをいったん “OFF” にしてください。これでセット完了です。

- シャッターボタンを半押しする、またはそのまま約16秒間経過してもセットが完了します。

ケーブルスイッチソケット

ケーブルスイッチLやオートベローズを接続する接点で、これらアクセサリーからの電気信号を伝え、シャッターを作動させます。

- ケーブルスイッチLを使う撮影で、ファインダーから目を離すオート撮影では接眼部からの入射光の影響で適正露出が得られない場合があります。このような場合は、逆入光防止アダプターを接眼部に取り付けて使用してください。(P93)
- ケーブルスイッチソケットには、市販されている一般のメカ方式ケーブルレリーズは取り付けないでください。故障の原因になります。

裏ぶたの取りはずし

カメラの裏ぶたは、着脱ピンを押し下げて取りはずすことができます。

絞り込みボタン

ファインダーは常に絞り開放の状態になっていますが、このボタンを押すとセットした絞り値まで絞り込まれ（ファインダー内は絞り値に応じて暗くなります。）、その状態で被写界深度や背景のぼけ具合を見ることができます。

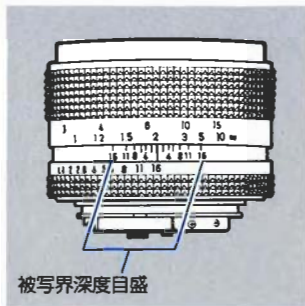
- 絞り込みボタンを押したまま露出の確認や撮影をしても、適正露出は得られません。

〈露出〉
フィルムに光をあてること。
写真の撮影を行うときは、絞り開口量とシャッターの開閉時間により、フィルムにあてる光の量を調節します。

〈シャッタースピード〉
カメラ本体に組み込まれているシャッターはフィルムにあたる光の量を、シャッターが開いている時間の長さで調節します。このシャッターを開いている時間の長さをシャッタースピードと言います。

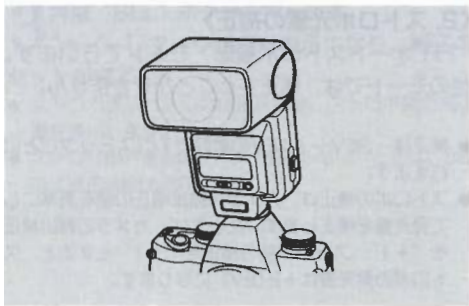
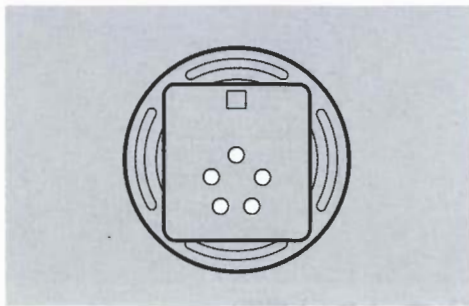
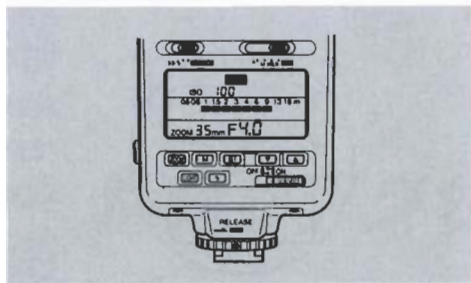
〈絞り値〉
レンズに組み込まれている絞りは、レンズを通りフィルムにあたる光の量を、開口部を拡げたり縮めたりして調節します。この開口部の大きさを絞り値と言います。

〈フィルム感度〉(ISO値)
フィルム感度は、どの程度の光までフィルムが感応するかをISO(International Standardization Organization・国際標準化機構)で定めた数値で表しています。
ISO値が小さいほど光に対する感度が低くなります。きめ細かく高画質な写真を撮るのに適しています。
ISO値が大きいほど光に対する感度は高くなります。少ない光の量で感応しますので、暗いところでの撮影や高速シャッターでの撮影ができます。しかしきめは粗く階調再現性は悪くなります。

〈被写界深度〉
レンズの一般的性質として、ある被写体にピントを合わせたとき、被写体自身が鮮明に写るだけでなく、その前後にも鮮明に写る範囲があります。この範囲を被写界深度といいます。同じレンズでの被写界深度は次ページのように変化します。

①絞りを絞り込むほど被写界深度が深く（前後に広く）、開放にするほど浅く（前後に狭く）なります。
②被写体の距離が遠いほど被写界深度が深く、近いほど浅くなります。
③ピントを合わせた被写体の後方に深く、前方に浅くなります。また異なるレンズでは、焦点距離の短いレンズほど深く、焦点距離の長いレンズほど浅くなります。

被写界深度の具体的な範囲は、個々のレンズの被写界深度目盛で確認することができます。例えば50mmF1.4標準レンズで2mの距離にピントを合わせ、絞りをF16にセットした場合は、被写界深度目盛16に対応する距離、すなわち約1.4mから約5mまでピントが合うことになります。

別売りアクセサリー

CONTAX TLA360 ストロボ

ガイドナンバー36（ISO100·35mmレンズ画角カバー時）の、クリップオンタイプのTTL自動調光方式パワーズームオートストロボです。ストロボオートセットの機能を備えていますので、コンタックスAriaと組み合わせると、従来のTTLオートストロボの機能に加えて以下の四つの機能をもった使いやすいストロボです。

- これらの機能は、カメラ上部のアクセサリーシューに直接ストロボを取り付けた場合にお使いいただけます。
  TLA延長コードやTLA増灯システムを利用して、カメラのアクセサリーシューから離して使用するときは、ストロボには自動セットされません。
- ストロボオートセット機能を備えた当社TLAストロボはストロボ取り付け脚の接点が5箇所になっています。

〈1. オートセット機能〉

機能 / ストロボ撮影モード	フィルム感度の自動セット	絞り値の自動セット
TTLオート	○	○
外部測光オート	○	×
マニュアル	○	○
マルチ発光	○	○

○：カメラ側のセットによりストロボにも自動セットします。（ストロボ充電完了時）
×：ストロボには自動セットされません。

〈2. ストロボ光量の補正〉

"TTLオートストロボ撮影" モードで行います。他のモードでは、補正することができません。

- 補正は－3EV～＋1EVの範囲で1/3ステップごとに行えます。
- ストロボの補正は、カメラの露出補正の値を基準にして発光量を補正します。たとえば、カメラの露出補正を "＋1"、ストロボ側の補正を "＋1" とすると、ストロボの発光量は＋2（EV）になります。

1 ストロボの "SEL" ボタンを押します。

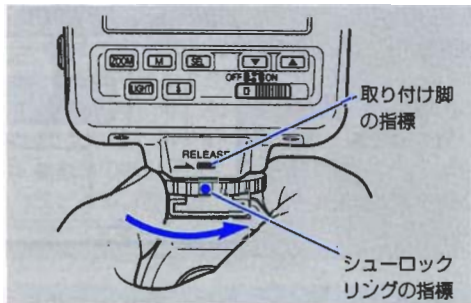
- ストロボの表示パネルに補正目盛が表示され、"＋／－" マークが点滅します。

2 ストロボの "▲" "▼" アップ／ダウンボタンを押して補正目盛を希望する値にします。

3 再度“SEL”ボタンを押します。
“＋／－”マークが点灯表示になり、補正のセットが完了です。

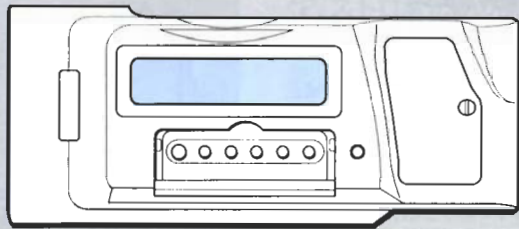
- ストロボ表示パネルの補正目盛は、ストロボ側の補正量を表示します。
- ストロボ側の補正量が“0”（補正しない）ときは、8秒後に補正目盛は消灯します。

〈3. “オートOFF”、“オートON”機能〉

ストロボの電源スイッチを“オートOFF”にセットしたとき、ストロボの電源が約80秒で自動的に“OFF”になります。またカメラのシャッターボタンを半押しすることで“オートON”になり、ストロボの充電が開始されます。
長時間のストロボ撮影時、省電効果があります。

〈4. シューストッパー〉

TLA360の“取り付け脚”には、ストロボが不用意にカメラからはずれないようにシューストッパー（抜け防止機構）がついています。
カメラの取り付け、取り外しの際は必ず“取り付け脚”の指標にシューロックリングの指標を合わせてから行ってください。

※上記のほかにも多くの特徴を持ったストロボですので、TLA360の取扱説明書を併せてご覧になり、多彩なストロボ撮影をお楽しみください

CONTAX データバックD−9（マルチファンクションタイプ）

コンタックスAriaデータバック付にはこのデータバックD−9が標準装備されています。

コンタックスAriaの裏ぶたと交換して使用する、マルチファンクションタイプのデータバックです。フィルムの最初の2コマに撮影時の露出データを一括して写し込む「まとめ写し込み」機能と、それぞれのコマ間に日付けや露出データなどを写し込む「コマ間写し込み」機能があります。併用することもできますので、「まとめ写し込み」をセットして露出データを記録し、「コマ間写し込み」で日付けや時刻あるいはカウンター数値などをコマ間に写し込み、写真の分類や露出データの保存と整理など幅広くご活用いただくことができます。また、カメラの作動をコントロールするインターバル撮影機能も搭載しています。

- データバックD−9では、撮影画面内への写し込みはできませんのでご注意ください。

まとめ写し込み機能

各コマの撮影時の露出データをカメラが記憶しておいて、フィルムを巻き戻すときに、あらかじめ空送りしておいたフィルムの最初の2コマにまとめて写し込みます。

■写し込む内容：

①フィルムを装填した日時（年・月・日・時）
②使用カメラ"AR"
③露出データ（露出補正値、シャッタースピード、絞り値、露出モード）
④コマの番号（5コマごと）
⑤巻き戻しをした日時（年・月・日・時）

コマ間写し込み機能

フィルムコマ間に次の8つのモードから1つ選んで写し込むことができます。

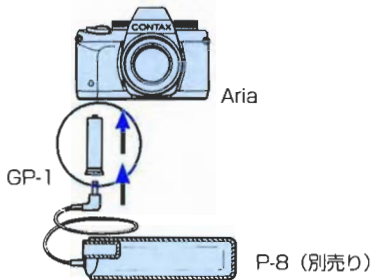
①日付け（年・月・日）　②日付け（月・日・年）
③日付け（日・月・年）　④時刻（日・時・分）
⑤撮影時の露出データ（露出補正値、シャッタースピード、絞り値、露出モードまたはキャラクター2文字）
⑥カウンター数値（4桁の積算カウンター＋フィルムカウンター）＋キャラクター2文字
⑦任意の6桁固定数値＋キャラクター2文字
⑧写し込みなし

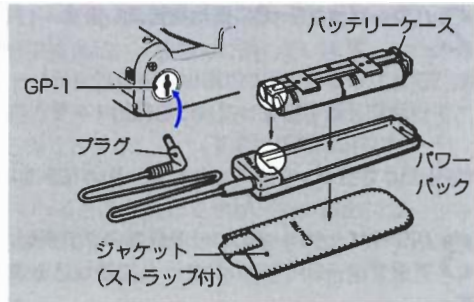
インターバル撮影

設定した時刻より一定時間ごとに、設定した撮影回数分自動的に撮影する機能を搭載しています。時間の経過による変化を観察する撮影や無人撮影に便利です。

「まとめ写し込みの例」　「コマ間写し込みの例」

（説明のために図示したもので実際の表示とは異なります。）

CONTAXパワーパックアダプターGP－1

Ariaに外部電源CONTAX パワーパックP－8（別売り）を使用するためのアダプターです。

パワーパックP－8は、1.5V単3形乾電池4本、または1.2V単3形ニッカド電池4本を使用する外部電源です。寒冷地など、気温の低い場所で、寒さの影響による電池の低下を防ぐために、カメラの外部で電源を保温しながら撮影するために利用します。

■ **取り付けかた** ■

1 カメラにパワーパックアダプターGP－1を取り付けます。

カメラのリチウム電池を取り出し、代わりにGP－1をはめ込み、回して固定します。

- 取りはずしたバッテリー室カバーは、大切に保管してください。

2 パワーパックP−8に電池を装填します。

(1)パワーパックP−8に付属しているバッテリーケースに、表示に従って単3形電池4本を入れP−8本体に取り付けます。
(2)P−8本体をジャケット（ケース）に入れます。

3 パワーパックP−8のコード先端のプラグを、アダプターGP−1のソケットに差し込みます。

- 撮影の際に、パワーパックを防寒具の内側などに入れると、より保温の効果を高めることができます。
- 電池を交換するときは、種類の違うものや古いものを混ぜたりしないで、4本とも同じ種類の新品電池を同時に交換してください。
- パワーパックを長時間使用しないときは、電池の漏液を防ぐため、バッテリーケースから電池を取りはずしておいてください。
- 接続コードの取りはずしは、コードを引っぱらずにプラグ部を持って行ってください。

■ P−8の仕様 ■

構成：パワーパック本体、バッテリーケース、ジャケット（ストラップ付き）、コードの長さ：1.5m

電源：1.5V単3形乾電池4本、または1.2V単3形ニッカド電池4本（単3形マンガン乾電池は電池容量が少ないためご使用になれません。）

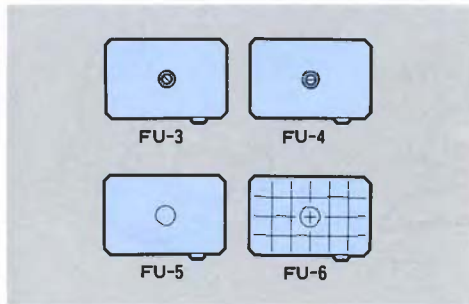
■ 使用電池と撮影本数 ■

（24枚撮り、新品電池使用、当社撮影基準による）

バッテリー種類	常温
1.5V単3形アルカリ乾電池4本	約25本
1.2V単3形ニッカド電池4本	*約10本

*ニッカド電池はフル充電して使用したとき。

※ 仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。

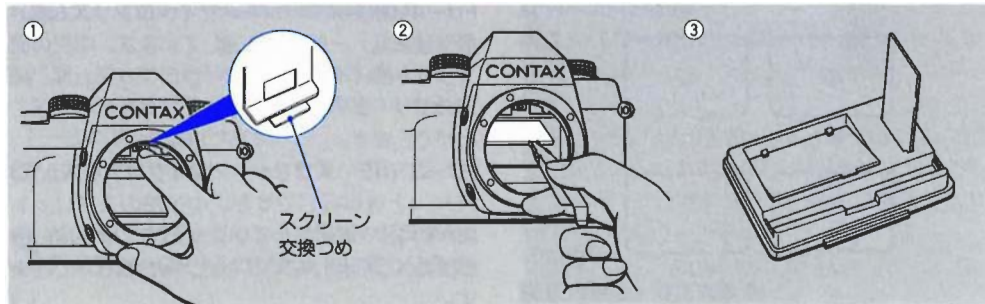
フォーカシングスクリーンFUタイプ

Aria用のフォーカシングスクリーンは、FU－3～6の4種類が用意されており、撮影目的や用途に応じて交換することができます。
フォーカシングスクリーンにはスポット測光範囲を示す中央部の直径5mmの円（FU－3、FU－4はマイクロプリズム部外側）が示してあります。

- フォーカシングスクリーンは高精度に仕上げられておりますので、絶対に手で触れないでください。

FU－4（水平スプリット／マイクロプリズム式）
標準装備品。一般撮影に適しています。中央のスプリット部、その外周のマイクロプリズム部、周辺のマット部の3つの部分でピントを合わせることができます。

FU－3（45°スプリット／マイクロプリズム式）
FU－4とほぼ同じですが、中央部のスプリット部が約45°に傾斜していますので、水平線の撮影はカメラを傾けなくてもピント合わせができます。

FU－5（全面マット式）
全面をマット状にしたスクリーンです。長焦点レンズなど、比較的暗いレンズを使用するときや、接写などでマイクロプリズム部あるいはスプリット部ではピントが合わせにくい場合に適しています。

FU－6（方眼マット式）
全面マット式に6mm間隔の方眼を入れたスクリーンです。特にオートベローズやPCディスタゴンを使用してのアオリ撮影、あるいは複写など厳密に構図を決定するときに適しています。

〈フォーカシングスクリーンの交換のしかた〉

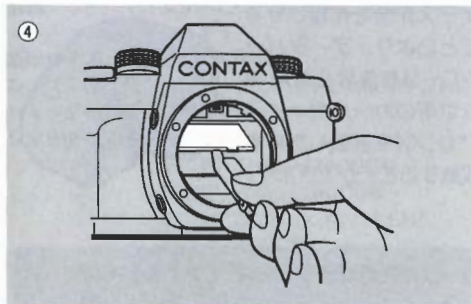
※各スクリーンには、交換用のピンセットが付属しています。必ず付属のピンセットをご使用ください。

スクリーンの交換は、フォーカシングスクリーンFUタイプ取扱説明書に記載の方法と異なります。次のようにして交換してください。

1 スクリーンの取りはずし

①レンズを取りはずしてからカメラのスクリーン交換つめを指の先などで軽く押します。
スクリーンが枠ごと下がりますから、静かにおろしてください。

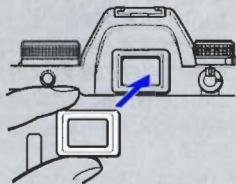
②スクリーンの突起部をスクリーンに付属のピンセットではさんで取り出します。

③取り出したスクリーンは、ケースの溝に立てておくと汚れや傷をつける心配がありません。

2 スクリーンの取り付け

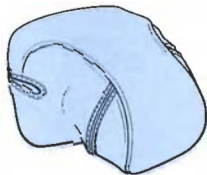
④取り付けるスクリーンの突起部をピンセットではさみ、下がっている枠内に入れます。次に枠の突起部（交換つめ）をピンセットでカチッと止まるところまで静かに押し上げてください。
最後に指で軽く押し、確実に入っているか確認してください。
これで取り付けは完了です。

- フォーカシングスクリーンの交換は必ず専用のピンセットを使用し、ミラー面、およびスクリーンに傷や指紋をつけないように注意してください。
- スクリーンにごみがついたときは、ブロワーで吹き飛ばすか、柔らかいレンズ刷毛で軽く払ってください。
- 取り付けかたが不完全ですと撮影中にスクリーンがはずれて破損したり、レンズの着脱ができなくなることがあります。このときは、専門的な処置を必要としますので最寄りのサービスステーションにお持ちください。
- 使わないスクリーンは、スクリーンケース内の図解に従って収納しておいてください。

視度補正レンズFLタイプ

別売の視度補正レンズは、図のように取り付けてください。アイカップは視度補正レンズの上から取り付けることができます。

近視のかたや、遠視のかたでファインダーの像がはっきり見えないときは別売の視度補正レンズFLタイプをファインダー接眼部にはめ込んで使用してください。−5ディオプター（D）から+3ディオプター（D）まで8種類が用意されています。

フレックスケースC−6

ケース先端を伸縮させることにより、データバックD−9を装着したAriaに以下のカールツァイスT*レンズを装着したまま収納することができます。

ケースの伸縮状態	C-6（フィルター1枚、レンズキャップ付）
縮めた状態で収納可能なレンズ	FD16/2.8, D18/4, D25/2.8, D28/2.8, D35/2.8, T45/2.8, P50/1.4, P50/1.7, S85/2.8, S100/3.5, MP60/2.8C
伸ばした状態で収納可能なレンズ	D28/2, D35/1.4, P85/1.4, P85/1.2, MP60/2.8, VS35-70, VS28-70

主な仕様

型式： 35mmフォーカルプレン式AE一眼レフカメラ

画面サイズ： 24×36mm

レンズマウント： コンタックス／ヤシカMMマウント

シャッター型式： 縦走行フォーカルプレンシャッター

シャッタースピード：
Av、P…16秒～1/4000秒、
Tv設定…4秒～1/4000秒、
マニュアル…B、X（1/125秒）、
4秒～1/4000秒

シンクロ接点： X接点（1/125秒以下で同調）
ダイレクト接点、およびシンクロターミナル付き

セルフタイマー： 電子式、作動時間10秒

シャッターレリーズ：
電子レリーズ方式、専用ケーブルスイッチソケット付

露出制御： ①絞り優先オート　②シャッター優先オート　③プログラムオート　④マニュアル露出　⑤TTLオートストロボ　⑥マニュアルストロボ

測光方式： TTL評価測光／中央重点平均測光／スポット測光切り替え式

測光連動範囲（F1.4レンズ使用·ISO100）： EV2～20

フィルム感度連動範囲：
DXコードによる自動設定時…ISO 25～5000、
マニュアル設定時…ISO 6～6400

AEロック： 像面光量記憶方式

露出補正： ＋2EV～－2EV（1/3ステップで設定可能）

A・B・C機構： A・B・Cレバーの設定による、露出補正幅　±0.5EV／±1EV

ストロボ調光連動方式： TTLダイレクト調光方式

ストロボ同調： 専用ストロボの充電完了によりシャッタースピード自動切り替え

ストロボオートセット機能：
ストロボオートセット機能付き当社ストロボと組み合わせることにより可能

後幕シンクロ： 後幕シンクロ機能のある当社ストロボと組み合わせることにより可能

ファインダー： ペンタプリズム使用のアイレベル型（ロングアイポイント式）
●視野率…95%、
●倍率…0.82倍
（50mm標準レンズ無限遠、視度－1Dのとき）

視度補正： 視度補正レンズ装着式
(別売FLタイプ、8種類)

フォーカシングスクリーン：
水平スプリット／マイクロプリズム式
（FU－4）を標準装備
スクリーン交換可能（FUタイプ）

ファインダー内表示：
ストロボマーク、シャッタースピード、絞り値、測光マーク、露出警告マーク、露出メーター、マニュアル露出マーク、露出補正マーク、フィルムカウンター／セルフタイマー残り時間／A·B·C表示／撮影フィルム終了表示

表示パネル： フィルムカウンター／A·B·C表示／フィルム感度／セルフタイマー残り時間／バルブ経過時間／カスタム機能表示、バッテリー警告マーク、セルフタイマーマーク、連続撮影マーク、1コマ撮影マーク、多重露出撮影マーク

フィルム装填： オートローディング式
フィルムカウンター"01"までの空送り機構付

フィルム巻上げ： 内蔵モーターによる自動巻上げ

フィルム巻戻し： 内蔵モーターによる自動巻戻し
（オートリターン／オートストップ機構）途中巻戻し可能

ドライブモード： 1コマ、連続、セルフタイマー、多重露出

巻き上げ速度： 連続撮影（"C" モード）最高約3コマ／秒
（新品電池使用、常温、当社撮影基準による）

フィルムカウンター：
表示パネル、ファインダー内とも自動復元順算式

アクセサリーシュー：
ダイレクトX接点（TLAストロボ連動接点付）

カスタム機能： ① シャッターボタン半押しによるAEロックする／しないの切り替え
② A·B·C撮影順序の切り替え
③ フィルム巻き戻し時のフィルム残り
④ フィルム終了時の巻き戻し
⑤ フィルム巻き上げスタート方法

裏ぶた： 裏ぶた開放レバーによる開放式、着脱可能、フィルム確認窓付

電源：　3Vリチウム電池（CR2）2個使用
バッテリーチェック：
自動チェック式　表示パネルに表示
フィルム撮影本数：24枚撮りフィルム約90本（新品電池使用、常温、当社撮影基準による）
その他：　絞り込みボタン付
寸法、質量：
コンタックスAria：137（幅）×92.5（高さ）×53.5（奥行き）mm、460g（電池別）（奥行きは裏ぶたグリップ部を含まず）
コンタックスAriaデータバックD−9付：
137（幅）×92.5（高さ）×60.5（奥行き）mm、505g（電池別）

※ *仕様・外観の一部を予告なく変更することがありますのでご了承ください。*

本製品の機能をフルに活用していただくためにも、交換レンズ、およびアクセサリー類は当社製品のご使用をおすすめします。コンタックス用として市販されている他社商品を使用して生じた事故や故障については、当社では保証いたしかねます。

「故障かな？」とお考えになるまえに

「故障かな？」と思われても、修理に出す前にもう一度次の表で症状と解決方法をご確認ください。

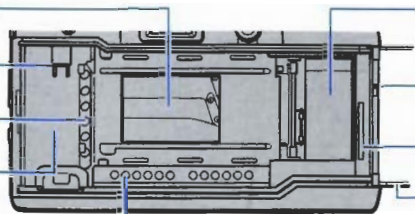
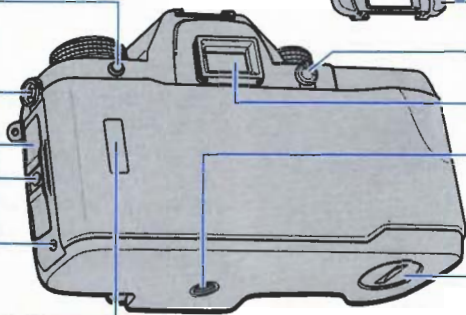
症状	原因	解決方法	参照頁
1.表示パネルに表示が出ない	● 電池が入っていない ● 電池が完全に消耗している ● 電池が逆向きに入っている	● 電池を入れる ● 新しい電池と交換する ● 電池を正しく入れ直す	12 13 12
2.バッテリー警告マーク"▭"が点滅する	● 電池が消耗している	● 新しい電池と交換する	13
3.フィルムを入れて裏ぶたを閉めたら、フィルムカウンターが"00"で点滅する	● フィルムが正しく送られていません	● フィルムをもう一度入れ直す	21
4.ファインダー内表示がはっきり見えない	● 視度が合っていない	● 別売の視度補正レンズFLタイプをご利用ください	84
5.シャッターが切れない	● ドライブモードが"セルフタイマー"モードになっている	● 他のドライブモードに切り替える	26

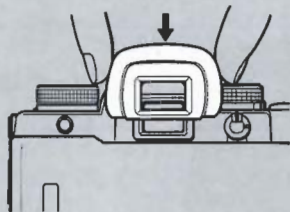
症状	原因	解決方法	参照頁
6.写真がぼけている	●ピントが合っていない ●シャッターボタンを押すときにカメラぶれを起こしている ●遅いシャッタースピードになる	●ピントを正しく合わせる ●カメラぶれを起こさないように、シャッターボタンを静かに押します ●三脚をご使用ください	29 30 —
7.露出補正マークが点滅している	●露出補正をかけたままになっている	●露出補正ダイヤルを"0"に戻す	47
8.A·B·C撮影で1コマしかシャッターが切れない	●シャッターボタンから指を早く離す	●3コマ撮影し終わるまでシャッターを押し続ける	52
9.オート撮影時、露出警告マーク（▲または▼）が点滅している	●被写体が明るすぎるかまたは暗すぎます	●P39の説明に従って露出を調整します	39
10.フィルムカウンターが点滅している。("00"以外)	●A·B·Cレバーが"±0.5"または"±1"に入っている	●A·B·Cレバーを"0"にして下さい	51

症状	原因	解決方法	参照頁
11.シャッターボタンを半押しすると、測光マークが点滅する	●カスタムファンクションが"1－1"になっている	●カスタムファンクションを"1－0"にしてください	66
12.フィルムを入れるとフィルムカウンターが"03"になる	●データバックD－9の"まとめ写し込みスイッチ"が"ON"になっています（データバック付のとき）	●次のフィルムを入れるときに"まとめ写し込みスイッチ"を"OFF"にしてください	＊
13.巻き戻しが途中で一旦止まる	●上に同じ	●上に同じ	＊

＊12と13はCONTAXデータバックD－9の取扱説明書をご覧ください。

各部の名称

露出モードロック
解除ボタン（P25）
シンクロターミナル
裏ぶた開放レバー（P20）
裏ぶたロック
解除ボタン（P20）
途中巻き戻しボタン（P31）
フィルム確認窓
アイカップ（P93）
測光レバー（P28）
ファインダー接眼部（P16）
三脚ねじ穴
バッテリー室／
バッテリー室カバー（P12）
シャッター幕（P20）
フィルム固定軸
DX接点
フィルム室
データバック用接点
スプール
裏ぶた着脱ピン（P68）
フィルム先端マーク（P21）
裏ぶた

アイカップの取り付けかた

図のように接眼部に取り付けてください。

逆入光防止アダプターとストラップの取り付けかた

逆入光防止アダプターは、先にストラップに通しておきます。あとは下図のようにしてカメラにストラップを取り付けます。
セルフタイマー撮影や、ケーブルスイッチLを使う撮影など、ファインダーから目を離すオート撮影では接眼部からの入射光の影響で適正露出が得られない場合があります。このような場合は、逆入光防止アダプターを接眼部に取り付けて使用してください。

①吊り環に保護皮を取り付けます。

②三角リングを吊り環に取り付けます。

③ストラップを保護皮と三角リングに通して図のように取り付けます。